

Systemwalker Centric Manager



構築ナビゲーション

Windows(R)共通

J2X1-7516-02Z0(00)
2010年11月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Managerの導入、およびSystemwalker Centric Managerを導入したシステムの移行手順について説明しています。

本書では、実際にSystemwalker Centric Managerを構築するにあたって、作業手順に則った、構築前の動作環境の確認、関連ミドルウェア (Interstage、Symfoware、ObjectDirector)との共存、新規導入、移行、および構築後の動作確認について順を追って説明するとともに、新規導入と移行時の作業手順や留意観点の違いについて説明します。

なお、本書は、Windows版を対象としています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの導入、およびSystemwalker Centric Managerを導入したシステムを移行する方を対象としています。

また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作、およびTCP/IP、SMTP、SNMP、ディレクトリサービス(Active DirectoryまたはLDAP)などの一般的な知識をご理解の上でお読みください。

略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows 7”と表記します。
 - Windows(R) 7 Home Premium
 - Windows(R) 7 Professional
 - Windows(R) 7 Enterprise
 - Windows(R) 7 Ultimate
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 R2”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard without Hyper-V(TM)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise without Hyper-V(TM)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Foundation”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 Server Core”、または“Server Core”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Server Core

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2008 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 STD”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 DTC”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Server 2003 EE”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) 2000”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server operating system
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Datacenter Server operating system
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows NT(R)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Server network operating system Version 3.51
 - Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 3.51
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows(R) XP”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition
- 以下の製品すべてを示す場合は、“Windows Vista”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic
 - Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium

- Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Editionを“Windows(R) Me”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 98 Second Editionを“Windows(R) 98”と表記します。
- Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system、Microsoft(R) Windows(R) 95 Second Editionを“Windows(R) 95”と表記します。
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 STD(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 DTC(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows Server 2003 EE(x64)”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) 2000 Server”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server operating system
- 以下の製品上で動作する固有記事を“Windows(R) XP x64”と表記します。
 - Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64 Edition
- Systemwalker Centric Manager Standard Editionを“SE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionを“EE版”と表記します。
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Editionを“GEE版”と表記します。
- Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、Global Enterprise Editionを“GEE”と表記します。
- Windows上、Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Windows版”と表記します。
- Itaniumに対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows for Itanium版”と表記します。
- Windows Server 2003 STD(x64)/Windows Server 2003 DTC(x64)/Windows Server 2003 EE(x64)に対応したWindows上で動作するSystemwalker Centric Managerの固有記事を“Windows x64版”と表記します。
- Microsoft(R) SQL Server(TM)を“SQL Server”と表記します。
- Microsoft(R) Visual C++を“Visual C++”と表記します。
- Microsoft(R) Cluster ServerおよびMicrosoft(R) Cluster Serviceを“MSCS”と表記します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

商標について

Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの登録商標または商標です。

APC、PowerChuteは、American Power Conversion Corp.の登録商標です。

ARCserveは、米国CA Technologiesの登録商標です。

Citrix、MetaFrameは、Citrix Systems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

IBM、IBMロゴ、AIX、AIX 5L、HACMP、Power、PowerHAは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。

Intel、Itaniumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

JP1は、株式会社日立製作所の日本における商標または登録商標です。

LaLaVoiceは、株式会社東芝の商標です。

LANDeskは、米国およびその他の国におけるAvocent Corporationとその子会社の商標または登録商標です。

Laplinkは、米国Laplink Software, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mozilla、Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

NEC、SmartVoice、WinShareは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Netscape、NetscapeのN および操舵輪のロゴは、米国およびその他の国におけるNetscape Communications Corporationの登録商標です。

Oracleは、米国Oracle Corporationの登録商標です。

Palm、Palm OS、HotSyncは、Palm, Inc.の商標または登録商標です。

R/3およびSAPは、SAP AGの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、LiveUpdate、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Symantec pcAnywhere、Symantec Packager、ColorScale、SpeedSendは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における商標です。

TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の登録商標です。

Veritasは、Symantec Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国McAfee, Inc.および関連会社の商標または登録商標です。

VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、VMotionはVMware, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ショートメール、iモード、mova、シティフォンは、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(以下NTTドコモ)の登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

平成22年11月

改版履歴
平成22年 3月 初版
平成22年 11月 第2版

Copyright 1995-2010 FUJITSU LIMITED

All Rights Reserved, Copyright (C) PFU LIMITED 1995-2010

Portions Copyright (C) 1983-1994 Novell, Inc., All Rights Reserved.

目次

第1章 構築手順の流れ	1
1.1 新規に導入する場合	1
1.2 別のコンピュータへバージョンアップする場合	1
第2章 動作環境を確認する	3
2.1 Systemwalker Centric Managerのライセンス数	3
2.2 必要なハードウェア資源	3
2.2.1 推奨機種	3
2.2.2 メモリ使用量	4
2.2.3 ディスク容量	5
2.2.4 使用する機能ごとに必要なハードウェア	8
2.3 関連ソフトウェア資源	8
2.3.1 動作OS	8
2.3.2 [Systemwalker Webコンソール]を使用する場合	14
2.3.3 使用する機能ごとに必要なソフトウェア	16
2.4 共存するソフトウェア資源	16
2.4.1 共存できないソフトウェア	16
2.4.2 確認が必要なソフトウェア	17
第3章 Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存環境を確認する	18
3.1 共存できない製品を確認する	18
3.2 インストール状態を確認する	19
3.3 Interstageと共存する場合の確認事項	20
3.4 Symfoware Serverと共存する場合の確認事項	21
3.5 Systemwalker Centric Managerインストール前に必要な作業	22
3.5.1 Interstage、またはObjectDirectorがインストールされている場合	22
3.5.2 Symfoware Serverがインストールされている場合	23
第4章 新規に導入する	24
4.1 OSの設定	25
4.1.1 ファイアウォールの設定	25
4.1.2 アカウントの作成	25
4.1.3 定義ファイル(hosts等)の修正	29
4.1.4 時刻の設定	30
4.1.5 レジストリの設定	30
4.1.6 SMTPサーバの設置	31
4.1.7 SNMPエージェントのインストール	31
4.2 Systemwalker Centric Managerのインストール	34
4.2.1 運用管理サーバのインストール	34
4.2.2 部門管理サーバ・業務サーバのインストール	35
4.2.3 運用管理クライアント・クライアントのインストール	36
4.3 環境構築前に実施する作業	36
4.3.1 INITHOSTを修正する	36
4.3.2 Symfoware Serverの設定を確認する	37
4.3.3 修正パッチを適用する	37
4.4 Interstageと共存する場合の環境構築	38
4.4.1 ネーミングサービスの配置を確認する	39
4.4.2 運用管理サーバと他製品サーバが共存する場合	39
4.4.3 運用管理サーバと他製品クライアントが共存する場合	41
第5章 バージョンアップする	46
5.1 ポリシー定義の管理方法を確認する	46
5.2 OSの設定	47
5.2.1 ファイアウォールの設定	47
5.2.2 アカウントの確認・作成	48

5.2.3 定義ファイル(hosts等)の修正.....	49
5.2.4 時刻の設定.....	49
5.2.5 レジストリの設定.....	49
5.2.6 SMTPサーバの設置.....	50
5.2.7 SNMPエージェントのインストール.....	50
5.3 運用管理サーバを移行する.....	53
5.3.1 運用管理サーバの移出.....	53
5.3.2 運用管理サーバの移入.....	54
5.4 部門管理サーバ・業務サーバを移行する.....	55
5.4.1 部門管理サーバ・業務サーバの移出.....	55
5.4.2 部門管理サーバ・業務サーバの移入.....	55
5.5 運用管理クライアント・クライアントを移行する.....	56
5.5.1 運用管理クライアント・クライアントの移出.....	56
5.5.2 運用管理クライアント・クライアントの移入.....	56
第6章 動作を確認する.....	58
6.1 自動環境定義チェックツールで確認する.....	58
6.1.1 ファイアウォール機能の状態を確認する.....	58
6.1.2 hostsファイルの存在・定義を確認する.....	59
6.2 Systemwalker Centric Managerの動作を確認する.....	59
6.2.1 サービスの起動状態を確認する.....	59
第7章 構築したシステムをバックアップする.....	61
付録A 構築後の作業について.....	62
A.1 監視対象ノードを追加する.....	62
A.1.1 監視対象のノードを追加する.....	62
A.1.2 監視対象ノードのSystemwalkerインストール状態を、運用管理サーバに通知する.....	62
A.2 稼働状態(ノード状態)を確認する.....	63
A.3 イベント監視の条件定義を確認する.....	64

第1章 構築手順の流れ

ここでは、Systemwalker Centric Managerの構築手順の流れについて説明します。

1.1 新規に導入する場合

本書では、Systemwalker Centric Managerを新規に導入する場合の手順を、以下の流れで説明しています。

動作環境を確認する



Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存環境を確認する



新規に導入する



動作を確認する



構築したシステムをバックアップする

また、構築後に実施する以下の作業について説明しています。

- ・ 監視対象ノードを追加する
- ・ 稼働状態(ノード状態)を確認する
- ・ イベント監視の条件定義を確認する

1.2 別のコンピュータへバージョンアップする場合

本書では、Systemwalker Centric Managerを別のコンピュータへバージョンアップする場合の手順を、以下の流れで説明しています。

動作環境を確認する



Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存環境を確認する



バージョンアップする



動作を確認する



構築したシステムをバックアップする

また、構築後に実施する以下の作業について説明しています。

- ・ 監視対象ノードを追加する
- ・ 稼働状態(ノード状態)を確認する
- ・ イベント監視の条件定義を確認する

第2章 動作環境を確認する

ここでは、Systemwalker Centric Managerを構築する前に実施する、動作環境の確認について説明します。

2.1 Systemwalker Centric Managerのライセンス数

Systemwalker Centric Managerを導入する前に、導入予定のコンピュータに対し、必要な本数分のライセンスがあることを確認します。

Windows Systemwalker Centric Manager V13のライセンス体系は、プロセッサライセンス方式(クライアントライセンス別売)です。

必要なライセンスについて

- プロセッサライセンス

サーバに搭載されるプロセッサ数(注)に応じて必要となるライセンスです。

例)

4CPUのサーバ2台にインストールする場合、必要なプロセッサライセンスは8本です。

- クライアントライセンス

クライアント数に応じて必要となるライセンスです。

例)

クライアント10台にインストールする場合、必要なクライアントライセンスは10本です。

注)マルチコアプロセッサの場合は基準が異なります。マルチコアプロセッサ搭載サーバの必要ライセンス本数については“Systemwalker V13 セールスガイド”の“ライセンス体系(解説と購入例)”を参照してください。

ライセンス見積り時の留意事項、およびその他手配時の留意事項については、“Systemwalker V13 セールスガイド”の“見積り時の留意事項(各商品共通)”、および“その他手配時の留意事項”を参照してください。

2.2 必要なハードウェア資源

Systemwalker Centric Managerの導入と運用に必要となるハードウェアを確認します。

2.2.1 推奨機種

運用管理サーバと運用管理クライアントには、以下の仕様のハードウェアをお勧めします。

	運用管理サーバ		運用管理クライアント
	Windows for Itanium	Windows for Itanium以外のWindows	
CPU	Itanium 9150N 1.60GHz 以上	Xeon E5502 1.86GHz 以上	Celeron 430 1.80GHz 以上
CPU数	2コア	2コア	—
メモリ(OS込み)	4GB 以上	2GB 以上	1GB 以上
富士通の推奨機種	PRIMEQUEST 510A 以上	PRIMERGY TX200 以上	—

ポイント

推奨機種については、必ずしも推奨どおりの(または推奨機種を超える)スペックにする必要はありません。

ただし、推奨機種を下回るスペックのハードウェアを使用した場合、パフォーマンスが得られない場合があります。

2.2.2 メモリ使用量

Systemwalker Centric Managerを運用するために必要なメモリ使用量の概略値は以下のとおりです。

ただし、以下のメモリ使用量には、システム起動に必要なメモリ使用量は含まれていません。

- [Windows for Itanium版](#)
- [Windows for Itanium以外のWindows版](#)

Windows for Itanium版

	運用管理 サーバ	運用管理 クライアント	部門管理 サーバ	業務 サーバ		クライアント
	マネージャ	クライアント	エージェント	エージェント	インストール レス型エージェント (デプロイ方 式)	クライアント
監視時	1.5GB 以上	90MB 以上	450MB 以上	350MB 以上	10MB 以上	80MB 以上
資源配付時	(式1)	—	(注)	(式2)	—	—
正規化時	(式3)	—	—	—	—	—
集計時	(式4)	—	—	—	—	—

式1)

$$9 + 1.5 \times \text{同時配付多重度 (単位:MB)}$$

式2)

$$6 + 2 \times \text{同時受信資源グループ数 (単位:MB)}$$

式3)

$$140 \times \text{mpatologcnvt同時実行多重度 (単位:MB)}$$

式4)

$$95 \times \text{mpatareportput同時実行多重度 (単位:MB)}$$

注)

(式1)または(式2)の大きい方の値。
資源の受信と送信を同時に行う場合は(式1)+(式2)

Windows for Itanium以外のWindows版

	運用管理サーバ	運用管理クライアント		部門管理サーバ	業務サーバ				クライアント	
	マネージャ	クライアント	資源配付クライアント	エージェント	エージェント	インストールレス型エージェント(デプロイ方式)	イベント監視エージェント	資源配付エージェント	クライアント	資源配付クライアント
監視時	480MB以上	90MB以上	80MB以上	150MB以上	120MB以上	10MB以上	100MB以上	20MB以上	80MB以上	80MB以上
資源配付時	(式1)	—	—	(注)	(式2)	—	—	(式2)	—	—
正規化時	(式3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
集計時	(式4)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

式1)

$9 + 1.5 \times$ 同時配付多重度 (単位:MB)

式2)

$6 + 2 \times$ 同時受信資源グループ数 (単位:MB)

式3)

$120 \times$ mpatalogcnvt同時実行多重度 (単位:MB)

式4)

$80 \times$ mpatareportput同時実行多重度 (単位:MB)

注)

(式1)、または(式2)の大きい方の値。

資源の受信と送信を同時に行う場合は (式1) + (式2)

2.2.3 ディスク容量

Systemwalker Centric Managerでは、以下のディスク容量が必要となります。

インストールする前にこれらの見積もりを実施してください。

- ・ [静的ディスク容量](#)
- ・ [動的ディスク容量](#)
- ・ [運用に応じて必要なディスク容量](#)

静的ディスク容量

Systemwalker Centric Managerのインストールに必要な、静的ディスク容量は以下のとおりです。

- ・ [Windows for Itanium版](#)
- ・ [Windows for Itanium版以外のWindows版](#)

Windows for Itanium版

追加機能の選択状態	使用領域	運用管理サーバ	運用管理クライアント	部門管理サーバ	業務サーバ		クライアント
		マネージャ	クライアント	エージェント	エージェント	インストールレス型エージェント(デプロイ方式)	クライアント
標準インストール	システムディレクトリ	350MB以上	100MB以上	50MB以上	50MB以上	0MB	30MB以上
	インストールディレクトリ	1.6GB以上	1.1GB以上	500MB以上	700MB以上	20MB以上	200MB以上
	合計	1.95GB以上 +DB分(注) 以上	1.2GB以上	550MB以上	750MB以上	20MB以上	230MB以上
カスタムインストール	システムディレクトリ	—	100MB以上	60MB以上	50MB以上	—	60MB以上
	インストールディレクトリ	—	1.2GB以上	700MB以上	720MB以上	—	400MB以上
	合計	—	1.3GB以上	760MB以上	770MB以上	—	460MB以上

注)

DB分:以下のデータベース容量の合計です。

- フレームワークのデータベース
- インベントリ管理のデータベース

各機能のデータベースの容量については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理サーバの環境構築”を参照してください。

Windows for Itanium版以外のWindows版

追加機能の選択状態	使用領域	運用管理サーバ	運用管理クライアント		部門管理サーバ	業務サーバ				クライアント	
		マネージャ	クライアント	資源配付クライアント	エージェント	エージェント	インストールレス型エージェント(デプロイ方式)	イベント監視エージェント	資源配付エージェント	クライアント	資源配付クライアント
標準インストール	システムディレクトリ	250MB以上	100MB以上	50MB以上	50MB以上	50MB以上	—	40MB以上	40MB以上	30MB以上	30MB以上
	インストールディレクトリ	1.6GB以上	1.1GB以上	320MB以上	510MB以上	460MB以上	20MB以上	320MB以上	320MB以上	200MB以上	200MB以上
	合計	1.85GB以上 +DB	1.2GB以上	370MB以上	560MB以上	510MB以上	20MB以上	360MB以上	360MB以上	230MB以上	230MB以上

追加機能の選択状態	使用領域	運用管理サーバ	運用管理クライアント		部門管理サーバ	業務サーバ				クライアント	
		マネージャ	クライアント	資源配付クライアント	エージェント	エージェント	インストール型エージェント(デブroy方式)	イベント監視エージェント	資源配付エージェント	クライアント	資源配付クライアント
		分(注)以上									
カスタムインストール	システムディレクトリ	—	100MB以上	—	60MB以上	50MB以上	—	—	—	60MB以上	—
	インストールディレクトリ	—	1.2GB以上	—	550MB以上	500MB以上	—	—	—	400MB以上	—
	合計	—	1.3GB以上	—	610MB以上	550MB以上	—	—	—	460MB以上	—

注)

DB分:以下のデータベース容量の合計です。

- フレームワークのデータベース
- インベントリ管理のデータベース

各機能のデータベースの容量については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理サーバの環境構築”を参照してください。

動的ディスク容量

Systemwalker Centric Managerのインストールディレクトリに必要な、動的ディスク容量を以下に示します。

なお、インストールディレクトリには、以下の情報が格納されます。

- Systemwalker Centric Managerのトレース情報
- 各サービスが作成する一時ファイル
- データベースのソート作業域

使用領域	運用管理サーバ	運用管理クライアント		部門管理サーバ	業務サーバ			クライアント	
	マネージャ	クライアント	資源配付クライアント	エージェント	エージェント	イベント監視エージェント	資源配付エージェント	クライアント	資源配付クライアント
インストールディレクトリ	2.350GB以上	470MB以上	470MB以上	835MB以上	770MB以上	440MB以上	770MB以上	340MB以上	340MB以上
合計	2.350GB以上	470MB以上	470MB以上	835MB以上	770MB以上	440MB以上	770MB以上	340MB以上	340MB以上

運用に応じて必要なディスク容量

運用に応じて必要なディスク容量については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の以下を参照してください。

- 運用管理サーバの場合
“運用管理サーバの環境構築”の“利用する機能により必要なディスク容量の見積もり”を参照してください。
- 部門管理サーバ・業務サーバの場合
“部門管理サーバ・業務サーバの環境構築”の“利用する機能により必要なディスク容量の見積もり”を参照してください。
- 運用管理クライアント・クライアントの場合
“運用管理クライアント・クライアントの環境構築”の“利用する機能により必要なディスク容量の見積もり”を参照してください。

2.2.4 使用する機能ごとに必要なハードウェア

使用する機能ごとに必要なハードウェアについては、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“必要なハードウェア資源”を参照してください。

2.3 関連ソフトウェア資源

Systemwalker Centric Managerの導入、および運用時に必要なソフトウェア資源について確認します。

2.3.1 動作OS

Systemwalker Centric Managerを導入するサーバとクライアントの動作OSは以下のとおりです。

- Windows for Itanium版の場合
- Windows for Itanium以外のWindows版の場合

Windows for Itanium版の場合

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
運用管理サーバ	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems	Service Pack 1/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems	Service Pack 無/2
運用管理クライアント	Windows(R) 2000 Professional	Service Pack 3/4 (注1)
	Windows(R) XP Professional	Service Pack 2/3 (注1)
	Windows Vista(R) Business(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows 7 Professional(x86)	
	Windows 7 Enterprise(x86)	
Windows 7 Ultimate(x86)		

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
部門管理サーバ /業務サーバ	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems	Service Pack 1/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems	Service Pack 1/2 EEの業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems	
クライアント	Windows(R) 2000 Professional	Service Pack 3/4
	Windows(R) XP Professional	Service Pack 2/3
	Windows(R) XP Home Edition	Service Pack 2/3
	Windows(R) XP Professional x64 Edition	Service Pack 無/3
	Windows Vista(R) Home Basic(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Premium(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Business(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Basic(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Premium(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Business(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows 7 Home Premium(x86)	
	Windows 7 Professional(x86)	
	Windows 7 Enterprise(x86)	
	Windows 7 Ultimate(x86)	
	Windows 7 Home Premium(x64)	
	Windows 7 Professional(x64)	
Windows 7 Enterprise(x64)		
Windows 7 Ultimate(x64)		

注1)

[Systemwalkerコンソール]を使用する場合は、カラーパレット(画面表示色)が65536色以上表示可能な環境をお勧めします。

Windows for Itanium以外のWindows版の場合

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
運用管理サーバ	Windows(R) 2000 Server	Service Pack 3/4 (注1)(注4)
	Windows(R) 2000 Advanced Server	Service Pack 3/4 (注1)(注4)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	Service Pack 無/1/2 (注1)(注5)

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Service Pack 無/1/2 (注1)(注2)(注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	Service Pack 無/2 (注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition (注3)	Service Pack 1/2 (注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition (注3)	Service Pack 1/2 (注2)(注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition (注3)	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x86)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x86)	Service Pack 無/2 (注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x86)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2 (注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation(x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation(x64) (注3)	(注1)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard(x64) (注3)	(注1)

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise(x64) (注3)	(注1)(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter(x64) (注3)	(注1)
運用管理クライアント	Windows(R) 2000 Professional	Service Pack 3/4 (注1)
	Windows(R) XP Professional	Service Pack 2/3 (注1)
	Windows Vista(R) Business(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows 7 Professional(x86)	
	Windows 7 Enterprise(x86)	
	Windows 7 Ultimate(x86)	
部門管理サーバ /業務サーバ	Windows(R) 2000 Server	Service Pack 3/4 (注4)
	Windows(R) 2000 Advanced Server	Service Pack 3/4 (注4)
	Windows(R) 2000 Datacenter Server	Service Pack 3/4 EEの業務サーバだけ動作可能 (注4)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	Service Pack 無/1/2 (注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Service Pack 無/1/2 (注2)(注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition	Service Pack 無/1/2 EEの業務サーバだけ動作可能 (注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition	Service Pack 無/2 EEの業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition (注3)	Service Pack 1/2 (注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition (注3)	Service Pack 1/2 (注2)(注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition (注3)	Service Pack 無/2 (注2)

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition (注3)	Service Pack 1/2 EEの業務サーバだけ動作可能 (注5)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition (注3)	Service Pack 無/2 EEの業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x86)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x86)	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x86)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x86)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core(x86)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation(x64) (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x64) (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter(x64) (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2 (注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) (x64) (注3)	Service Pack 無/2

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Server Core(x64) (注3)	Service Pack 無/2 業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation(x64) (注3)	
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard(x64) (注3)	
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise(x64) (注3)	(注2)
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter(x64) (注3)	
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Server Core(x64) (注3)	業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Server Core(x64) (注3)	業務サーバだけ動作可能
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter Server Core(x64) (注3)	業務サーバだけ動作可能
クライアント	Windows(R) 2000 Professional	Service Pack 3/4
	Windows(R) XP Professional	Service Pack 2/3
	Windows(R) XP Home Edition	Service Pack 2/3
	Windows(R) XP Professional x64 Edition	Service Pack 無/2
	Windows Vista(R) Home Basic(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Premium(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Business(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x86)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Basic(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Home Premium(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Business(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Enterprise(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows Vista(R) Ultimate(x64)	Service Pack 無/1/2
	Windows 7 Home Premium(x86)	
	Windows 7 Professional(x86)	
	Windows 7 Enterprise(x86)	

インストール種別	動作OS	備考 (修正情報/パッチ番号)
	Windows 7 Ultimate(x86)	
	Windows 7 Home Premium(x64)	
	Windows 7 Professional(x64)	
	Windows 7 Enterprise(x64)	
	Windows 7 Ultimate(x64)	

注1)

[Systemwalkerコンソール]を使用する場合は、カラーパレット(画面表示色)が65536色以上表示可能な環境をお勧めします。

注2)

Systemwalker Centric Manager Standard Editionは、クラスタ環境をサポートしていません。クラスタ環境の場合は、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionを使用してください。

注3)

x64 プラットフォームにおいて、32bit版では以下の条件があります。

運用管理サーバでは、部門管理サーバ・業務サーバに対するセキュリティポリシーの設定を行うことはできますが、運用管理サーバ自身のサーバアクセス制御はサポートしていません。

部門管理サーバ・業務サーバでは、サーバアクセス制御をサポートしていません。

注4)

Windows(R) 2000 環境では、以下の条件があります。

- 運用管理サーバでは、部門管理サーバ・業務サーバに対するセキュリティポリシーの設定を行うことはできますが、運用管理サーバ自身のサーバアクセス制御はサポートしていません。
- 部門管理サーバ・業務サーバでは、サーバアクセス制御をサポートしていません。

注5)

サーバアクセス制御機能を使用する場合、サーバアクセス制御のポリシーを部門管理サーバ/業務サーバに配付することはできませんが、サーバアクセス制御の対象とするためにはSP1の適用が必要です。

2.3.2 [Systemwalker Webコンソール]を使用する場合

[Systemwalker Webコンソール]を使用する場合に必要なソフトウェアと、[Systemwalker Webコンソール]で使用する機能により必要な作業について説明します。

- ・ [必要なソフトウェア](#)
- ・ [\[Systemwalker Webコンソール\]で使用する機能により必要な作業](#)

必要なソフトウェア

運用管理サーバ側、DMZ内、および[Systemwalker Webコンソール]を使用する側のそれぞれに、以下のソフトウェアが必要です。

運用管理サーバ側

以下のソフトウェアのどれかが必要です。

運用管理サーバのOS	必要ソフトウェア
Windows Server 2008 STD/ Windows Server 2008 DTC/ Windows Server 2008 EE/ Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems/	<ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft(R) Internet Information Services 7.0/7.5 ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V9.1 ・ Interstage Application Server Enterprise Edition V9.2

運用管理サーバのOS	必要ソフトウェア
Windows Server 2008 Foundation/Windows Server 2008 R2	
Windows Server 2003 STD/ Windows Server 2003 DTC/ Windows Server 2003 EE	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Internet Information Services 6.0 • Interstage Application Server Plus V7.0 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server) • Interstage Application Server Standard Edition V6.0/V7.0/V8.0/V9.0/V9.1/V9.2 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server) • Interstage Application Server Enterprise Edition V6.0/V7.0/V8.0/V9.0/V9.1/V9.2 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server)
Windows(R) 2000	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Internet Information Services 5.0 • Interstage Application Server Plus V6.0/V7.0 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server) • Interstage Application Server Standard Edition V6.0/V7.0/V8.0/V9.0/V9.1/V9.2 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server) • Interstage Application Server Enterprise Edition V6.0/V7.0/V8.0/V9.0/V9.1/V9.2 (InfoProvider Pro/Interstage HTTP Server)

DMZ内

インターネットで[Systemwalker Webコンソール]を使用して監視する場合、DMZ内にリバースプロキシが必要です。

インターネット公開サーバのOS	リバースプロキシ
Windows Server 2003 STD/ Windows Server 2003 DTC/ Windows Server 2003 EE (x86)	以下の製品のHTTPアプリケーションゲートウェイ機能(リバース機能) <ul style="list-style-type: none"> • Interstage Security Director V6.0
Windows(R) 2000	以下のいずれかの製品のInfoProxy機能 <ul style="list-style-type: none"> • INTERSTAGE Security Director V3.0L20 • INTERSTAGE Security Director V4.0 または、 以下のいずれかの製品のHTTPアプリケーションゲートウェイ機能(リバース機能) <ul style="list-style-type: none"> • Interstage Security Director V5.0 • Interstage Security Director V6.0

[Systemwalker Webコンソール]を使用する側

WWWブラウザが必要です。以下に示すWWWブラウザを使用することをお勧めします。

OS種別	推奨するWWWブラウザ
Windows(R) 2000/XP Windows Server 2003 STD/ Windows Server 2003 DTC/ Windows Server 2003 EE	Internet Explorer 5.0/5.5/6.0/7/8

OS種別	推奨するWWWブラウザ
Windows Server 2008 STD/ Windows Server 2008 DTC/ Windows Server 2008 EE/ Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems/ Windows Server 2008 Foundation/ Windows Server 2008 R2	

[Systemwalker Webコンソール]で使用する機能により必要な作業

[Systemwalker Webコンソール]で以下の機能を使用する場合は、以下の作業を行っておいてください。

作業が必要な機能

- － 性能監視ペアノード経路マップ表示
- － 性能監視ノード中心マップ表示

必要な作業

1. Java Plug-Inを含んだ、以下のJava Runtime Environment(JRE)をインストールする。
 - JRE 1.5.0_10
2. ブラウザの設定でJavaおよびJava Plug-Inを有効にする。

2.3.3 使用する機能ごとに必要なソフトウェア

使用する機能ごとに必要なソフトウェアについては、“Systemwalker Centric Manager 解説書”の“関連ソフトウェア資源”を参照してください。

2.4 共存するソフトウェア資源

Systemwalker Centric Managerと共存できないソフトウェア、または共存時に確認が必要なソフトウェアについて説明します。

なお、Interstage、Symfoware、ObjectDirector、またはそれらを使用する他製品と共存する場合の確認事項については、“[Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存環境を確認する](#)”を参照してください。

2.4.1 共存できないソフトウェア

以下の製品は、Systemwalker Centric Managerと共存できません。

- Systemwalker Desktop Monitor
- Systemwalker Event Agent
- Systemwalker Software Delivery

使用する機能により共存できない製品は以下のとおりです。

- 監査ログ分析機能を使用する場合
 - － Symfoware Navigator
 - － Systemwalker Desktop Log Analyzer
- リモート操作機能を使用する場合
 - － 他社のリモートコントロール製品
 - － MetaFrame

2.4.2 確認が必要なソフトウェア

以下のソフトウェアを使用する場合は、事前に確認が必要です。

ADJUST

Systemwalker Centric Managerの以下のインストール種別と、V2.1L30以前のADJUSTとは共存できません。ADJUSTと共存する場合には、ADJUST V2.1L40以降を使用してください。

- ・ 運用管理サーバ
- ・ 運用管理クライアント

リモートデスクトップ、およびターミナルサービス

Live Help (リモート操作機能)は、リモートデスクトップ・ターミナルサービスと共存させることができます。

ただし、ターミナルサービスが起動しているコンピュータ上でのLive Helpの使用は、特定の条件下でのみ可能です。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書リモート操作機能編 ユーザーズガイド”の“ターミナルサービスとの同時動作”を参照してください。

リモートアシスタンス機能

Live Help (リモート操作機能)は、リモートアシスタンス(Windows Messenger)機能と共存させることができます。

ただし、Live Helpを使用する場合には、事前にリモートアシスタンス機能を終了してください。

また、リモートアシスタンス機能を使用する場合には、事前にLive Helpを終了してください。

リモートアシスタンス機能とLive Helpを同時に使用する運用はサポートしていません。

第3章 Interstage, Symfaware, ObjectDirectorとの共存環境を確認する

ここでは、Interstage、Symfaware、およびObjectDirectorが導入されているコンピュータに、Systemwalker Centric Managerを導入する場合に必要な確認事項と、Systemwalker Centric Managerをインストールする前に必要な作業について説明します。

3.1 共存できない製品を確認する

Systemwalker Centric Managerは、以下の製品と共存できません。

Systemwalker Centric Manager	共存できない製品
Windows版	INTERSTAGE Application Server Standard Edition V6.x以前 (注1) INTERSTAGE Application Server Enterprise Edition V6.x以前 (注1) Interstage Application Server Standard Edition V7.0L10/V7.0L11 (注1) Interstage Application Server Enterprise Edition V7.0L10/V7.0L11 (注1) Interstage Application Server Enterprise Edition V8.0.0/V8.0.1/V9.0.0/V9.0.0A (注4) Interstage Application Server Standard-J Edition V8.0.0/V8.0.1/V9.0.0/V9.0.0A (注4) INTERSTAGE Application Server Web Edition V3.0 (注1) INTERSTAGE Application Server Web-J Edition V3.x/V4.x (注1) Interstage Application Server Web-J Edition V5.x/V6.x/V7.x/V8.x (注1) Interstage Web Server V9.0.0 (注1) Interstage Application Server Plus V5.0L20/V6.0L10 (注1) Interstage Application Server Plus Developer V5.0L20/V6.0L10/V7.0L10 (注1) Interstage Application Framework Suite Standard Edition V6.0L10/V6.0L10B/V7.0L10 (注1) Interstage Application Framework Suite Enterprise Edition V6.0L10/V6.0L10B (注1) Interstage Application Framework Suite Web Edition V6.0L10/V6.0L10A/V6.0L10B/V7.0L10 (注1) Interstage Apworks Enterprise Edition V6.0L10/V6.0L10A/V6.0L10B/V7.0L10/V8.0.0(注1) Interstage Apworks Standard Edition V6.0L10/V6.0L10A/V7.0L10(注1) Interstage Apworks Modelers-J Edition V6.0L10/V6.0L10A/V7.0L10(注1) Interstage Apworks Standard-J Edition V8.0.0/V8.0.1(注1) Interstage Studio Enterprise Edition V9.0.0/V9.0.0A/V9.0.1(注1) Interstage Studio Standard-J Edition V9.0.0/V9.0.0A/V9.0.1(注1) Interstage Studio with UML Modeling Tool V9.0.0 (注1) Interstage Form Coordinator Workflow V7.0L10/V8.0.0 (注1) Interstage Business Application Manager Enterprise Edition for .NET V1.0L10/V1.0L20/V1.0L21/V2.0.0/V1.0/V1.1 (注1) Interstage Business Application Manager Standard Edition for .NET V1.0L10/V1.0L20/V1.0L21/V1.0/V1.1 (注1) Interstage Business Application Manager Developer Edition for .NET V1.0L10/V1.0L20/V2.0.0/V1.0/V1.1 (注1) Interstage Business Application Manager Component Connector for .NET V1.0L10/V1.0L20/V1.0L21/V2.0.0/V1.0/V1.1 (注1) Interstage Business Application Server Standard Edition V8.0.0/V8.0.1A/V8.0.1B/V9.0.0/V9.0.0A (注1) Internet Navigware Server V6.0L10/V7.0L10/V7.0L20/V8.0L10/V8.0L10A/V8.0L11/V8.0L11A (注1) Internet Navigware Enterprise LMS Server V9.0L10(注4) Internet Navigware e-Learning Pack V9.0L10/V9.0L10A(注4) Interstage List Manager Standard Edition V7.0L10/V7.0L10A/V8.0.0 (注1) Interstage List Manager Enterprise Edition V8.0.0 (注1) Interstage List Works Standard Edition V6.0L10/V7.0L10/V7.0L10A/V7.0L10B/V7.0L10C/V7.0L10D/V8.0.0/V8.0.1/V9.0.1 (注1) Interstage List Works Enterprise Edition V6.0L10/V7.0L10/V7.0L10A/V7.0L10B/V7.0L10C/V7.0L10D/V8.0.0/

Systemwalker Centric Manager	共存できない製品
	V8.0.1/V9.0.1 (注1) Interstage Shunsaku Data Manager Enterprise Edition V7.0L10/V7.0L10A (注1) SUCCESS SERVER V1.0L10/V2.0L10 (注1) TRADEMASTER スタンダード エディション V1.0L10/V2.0L10 TRADEMASTER エンタープライズ エディション V1.0L10/V2.0L10 TRADEMASTER エンタープライズ HA エディション V2.0L10 TRADEMASTER Base Edition V3.0L10 TRADEMASTER Standard Edition V3.0L10 TRADEMASTER Enterprise Edition V3.0L10 Symfoware Server Enterprise Edition (注5) Symfoware Server(クライアント機能) (注2) Symfoware Server Connection Manager (注2) Symfoware Server Standard Edition (注2) Symfoware Server for Windows (注2) Symfoware Navigator Server 全VL (注3) Systemwalker Desktop Log Analyzer 全VL (注3) Systemwalker Desktop Inspection V12.0L10/V13.2.0A/V13.2.1A (注1) Systemwalker Desktop Inspection Base Edition V13.0.0/V13.2.0 (注1) Systemwalker Desktop Inspection Standard Edition V13.0.0/V13.2.0/V13.2.1 (注1) Systemwalker Desktop Monitor V10.0L20 (注1)

注1) Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバと運用管理クライアントの場合

注2) Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバの場合

注3) 運用管理サーバ、または運用管理クライアントで監査ログ分析機能を利用する場合

注4) 運用管理サーバがWindows for Itanium以外のWindows版の場合で、Interstage Application ServerのWeb Package機能をインストールする場合

注5) Server Enterprise Editionの、データベースの文字コードがシフトJISコードの場合は共存可能です。

3.2 インストール状態を確認する

Systemwalker Centric Managerは、当社製品のInterstage、ObjectDirector、またはSymfowareの一部の機能を使用しています。

Interstage、ObjectDirector、またはSymfowareのインストール状態により、Systemwalker Centric Managerがインストールする製品や、事前に必要な作業が異なります。

- ・ [インストールされていない場合](#)
- ・ [インストールされている場合](#)

インストールされていない場合

Systemwalker Centric Managerのインストール時に、以下の製品をインストールします。

括弧内は、Systemwalker Centric Managerがインストールする場合のパッケージバージョンです。

【Windows for Itanium版の場合】

以下をインストールします。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V8.0.0
 - ObjectDirector サーバ (V10.0L10)
 - ObjectDirector クライアント (V11.0L10)

- Symfoware Server Enterprise Edition V8.0.0
 - Symfowareサーバ (V8.0.0)
 - Symfowareクライアント (V8.0.4)

【Windows for Itanium版以外の場合】

以下をインストールします。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V8.0.0
 - ObjectDirector サーバ (V10.0.L10)
- Interstage Application Server Enterprise Edition V9.0.0
 - ObjectDirector クライアント (V11.0.L10)
- Symfoware Server Enterprise Edition V8.0.0
 - Symfowareサーバ (V8.0.0)
 - Symfowareクライアント (V8.0.2)
(Symfoware サーバ V8.0.0と共存する場合)
- Symfoware Server Enterprise Edition V9.0.0
 - Symfowareクライアント (V9.0.0)

Systemwalker Centric Managerで上記の製品をインストールする場合、インストール種別によりインストールする機能が異なります。以下の表は、Systemwalker Centric Managerのインストール種別と、インストールされる他製品の機能を示しています。

インストール種別	製品名		
	Interstage Application Server		Symfoware Server Enterprise Edition、 Symfoware Server Enterprise Extended Edition
	ObjectDirector サーバ	ObjectDirector クライアント	Symfoware サーバ
運用管理 サーバ	○	—	○
部門管理サーバ	—	—	—
業務サーバ	—	—	—
運用管理クライアント	—	○	—
クライアント	—	—	—

○:インストールされる

—:インストールされない

インストールされている場合

Systemwalker Centric Managerでは、上記の製品をインストールしません。

Systemwalker Centric Managerをインストールする前に、Interstage、ObjectDirector、またはSymfowareのバージョン・レベルを確認し、必要に応じてバージョンアップを実施してください。

詳細については、“[Systemwalker Centric Managerインストール前に必要な作業](#)”を参照してください。

3.3 Interstageと共存する場合の確認事項

Interstageが導入されているコンピュータにSystemwalker Centric Managerをインストールする場合は、以下を確認してください。

InfoProviderPro以外のWWWサーバを使用する場合

Interstageは、WWWサーバにInfoProviderProを使用しているため、Systemwalker Centric ManagerのWeb連携で使用されるWWWサーバに、IISなどのInfoProviderPro以外のWWWサーバを使用する場合は、以下のどちらかの対処が必要となります。

- InfoProviderProのサービス(サービス名=f3mmwww)を停止し、InfoProviderProを使用しない
- InfoProviderPro、またはIISのWebサイトのTCPポートを80以外に変更する

3.4 Symfoware Serverと共存する場合の確認事項

Symfoware Serverが導入されているコンピュータにSystemwalker Centric Managerをインストールし、リモートデスクトップ(ターミナルサービス)を使用する場合は、以下を確認してください。

V9.1.0以前のSymfoware Serverがインストールされている場合

機能	確認事項
電源制御	他のユーザがリモートデスクトップ(ターミナルサービス)でログインしているコンピュータに対して、クライアントの電源切断を行った場合は、電源切断が中止されます。他のユーザがログインしている場合でも強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプションに/EFを指定してください。
リモート操作	Live Help(リモート操作機能)は、リモートデスクトップ・ターミナルサービスと共存させることができます。ただし、ターミナルサービスが起動しているコンピュータ上でのLive Helpの使用は、特定の条件下でのみ可能です。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書リモート操作機能編 ユーザーズガイド”の“ターミナルサービスとの同時動作”の項を参照してください。
バックアップ	リモートセッションで接続した場合は、使用できません。ただし、コンソールセッションで接続すれば使用できます。
保守情報収集ツール	
Mpmsgpsv(メッセージログ保存コマンド)	
opalogchg(メッセージログ/コマンドログの切替えコマンド)	
opaloginf(メッセージログ情報表示コマンド)	
opmtrinf(監視イベントログDB情報表示コマンド)	
mpcmmov(運用管理サーバ切り替えコマンド)	
mpdrpspm(構成情報配付コマンド)	
全体監視サーバ/運用管理サーバのホスト名やIPアドレスの変更	リモートセッションで接続した場合は、使用できません。ただし、コンソールセッションで接続すれば使用できます。 運用管理サーバ切り替えコマンド、構成情報一括配付コマンドは、使用できません。
環境作成	リモートデスクトップ(ターミナルサービス)で使用できません。
環境削除	
運用管理サーバのデータベース拡張	
リストア	

V9.1.0以前のSymfoware Serverがインストールされていない場合

機能	注意事項
電源制御	他のユーザがリモートデスクトップ(ターミナルサービス)でログインしているコンピュータに対して、クライアントの電源切断を行った場合は、電源切断が中止されます。他のユーザがログインしている場合でも強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプションに/EFを指定してください。
リモート操作	Live Help(リモート操作機能)は、リモートデスクトップ・ターミナルサービスと共存させることができます。ただし、ターミナルサービスが起動しているコンピュータ上でのLive Helpの使用は、特定の条件下でのみ可能です。詳細は、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書リモート操作機能編 ユーザーズガイド”の“ターミナルサービスとの同時動作”の項を参照してください。

3.5 Systemwalker Centric Managerインストール前に必要な作業

Systemwalker Centric Managerをインストールするコンピュータに、“[インストール状態を確認する](#)”に記載されている製品がすでにインストールされている場合は、インストールされている製品のバージョン・レベルを確認してください。

ここでは、インストールされている製品のバージョン・レベルに応じて必要な作業について説明します。

3.5.1 Interstage、またはObjectDirectorがインストールされている場合

ObjectDirectorのバージョン・レベルを確認し、必要に応じてINTERSTAGE Application Server V7.0L10以降にバージョンアップしてください。

ObjectDirectorのバージョン・レベルを確認する方法と、バージョンアップが必要なObjectDirectorのバージョン・レベルについて説明します。

ObjectDirectorのバージョン・レベルを確認する方法

ObjectDirectorのバージョン・レベルは、以下の方法で確認することができます。

- [ObjectDirectorサーバの場合]

以下のレジストリを参照します。

キー名:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥Install¥ObjectDirector Server

値名:

VersionLevel

例)

以下の場合、V7.0L22がインストールされています。

VersionLevel	V7.0L22
--------------	---------

- [ObjectDirectorクライアントの場合]

以下のレジストリを参照します。

キー名:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥¥Fujitsu¥¥Install¥¥ObjectDirector Client

値名:

VersionLevel

例)

以下の場合、V7.0L23がインストールされています。

バージョンアップが必要なObjectDirectorのバージョン・レベル

確認したバージョン・レベルが以下の表に該当する場合は、INTERSTAGE Application Server V7.0L10以降にバージョンアップしてください。

インストール製品	機能・インストール種別	ObjectDirectorのバージョン・レベル
INTERSTAGE Application Server V6系以前	ObjectDirectorサーバ・運用管理サーバ	V8系以前
	ObjectDirectorクライアント・運用管理クライアント	V8系以前

3.5.2 Symfoware Serverがインストールされている場合

インストールされているSymfoware Serverのバージョン・レベルを確認し、バージョン・レベルが、以下の表に該当する場合は、表の“実施する作業”に示す作業を行ってください。

インストール製品	機能/インストール種別	Symfoware Serverのバージョン・レベル	実施する作業
Symfoware Server for Windows NT(R), Symfoware Server Standard Edition	Symfoware Server ・運用管理サーバ	全バージョン レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・Symfoware Server Enterprise Edition V2.0L10以降にバージョンアップしてください。 ・Symfoware Server Enterprise Edition V2.0L10にバージョンアップした場合は、応急修正を適用してください。
Symfoware Server Enterprise Edition V1系	Symfoware Server ・運用管理サーバ	V1系	<ul style="list-style-type: none"> ・Symfoware Server Enterprise Edition V2.0L10以降にバージョンアップしてください。 <p>[注意] Symfoware Server Enterprise Edition V1系がインストール済みの場合、Systemwalker Centric Managerをインストールするとエラーメッセージを出力し処理を中止します。</p>
Symfoware Server Enterprise Edition V2系	Symfoware Server ・運用管理サーバ	V2系	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は不要です。
Symfoware Server Enterprise Edition V4系	Symfoware Server ・運用管理サーバ	V4系	<ul style="list-style-type: none"> ・Symfoware Server V2.0L65の場合は、応急修正を適用してください。
Symfoware Server Enterprise Edition V5系、 Symfoware Server Enterprise Edition V6系	Symfoware Server ・運用管理サーバ	V5系 V6系	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は不要です。

第4章 新規に導入する

ここでは、Systemwalker Centric Managerを新規に導入する場合の手順について説明します。

なお、Systemwalker Centric Managerを導入・移行する場合は、すべてのアプリケーションソフトを停止した状態で実施してください。

新規導入手順の流れ

OSの設定

- ・ ファイアウォールの設定
- ・ アカウントの作成
- ・ 定義ファイル(hostsなど)の修正
- ・ 時刻の設定
- ・ レジストリの設定
- ・ SMTPサーバの設置
- ・ SNMPエージェントのインストール



Systemwalker Centric Managerのインストール

- ・ 運用管理サーバのインストール
- ・ 部門管理サーバ・業務サーバのインストール
- ・ 運用管理クライアント・クライアントのインストール

ポイント

Systemwalker Centric Managerのインストール後、環境構築を実施する前に以下を実施します。

- ・ INITHOSTの修正
(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- ・ Symfoware Serverの設定を確認する
(Symfoware/RDB上にデータベースを構築しているコンピュータに運用管理サーバをインストールした場合)
- ・ 修正パッチの適用



Interstageと共存する場合の環境構築

(Interstage、ObjectDirector、またはそれらを使用する他製品が導入されているコンピュータに、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールした場合)

- ・ ネーミングサービスの配置を確認する
- ・ 環境を構築する
 - － 運用管理サーバと他製品サーバが共存する場合
 - － 運用管理サーバと他製品クライアントが共存する場合

4.1 OSの設定

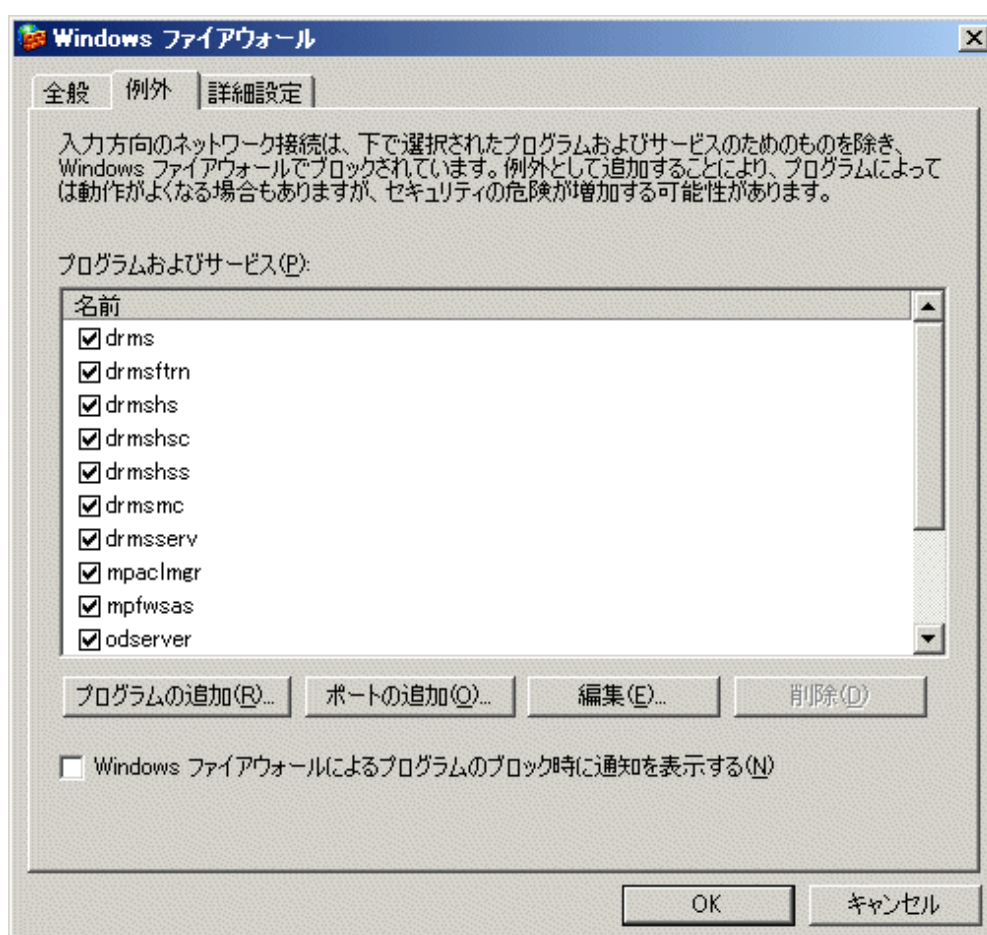
Systemwalker Centric Managerを新規に導入する場合に必要な、OSの設定について説明します。

4.1.1 ファイアウォールの設定

ファイアウォールが有効になっているOS上でSystemwalker Centric Managerを使用する場合は、Windowsファイアウォールの設定を実施してください。

Windowsファイアウォール機能によりSystemwalker Centric Managerの通信処理がブロックされていると、Systemwalker Centric Managerの通信を行うことができません。

Windowsファイアウォールが有効になっているOS上でSystemwalker Centric Managerを使用する場合、Systemwalker Centric Managerの各コンポーネントが使用するポートをファイアウォールの「例外」に指定し、Systemwalker Centric Managerが通信を行う環境を整えてください。



Systemwalker Centric Managerの各機能が使用するポート番号については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“ポート番号”を参照してください。

4.1.2 アカウントの作成

Systemwalker Centric Managerで利用するアカウントについて説明します。

Systemwalker Centric Managerの導入、運用には、スタートアップアカウント、およびSystemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントが必要です。

また、運用管理クライアントをインストールする場合は、ローカルグループの確認が必要です。

- ・ スタートアップアカウントについて
- ・ Systemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントについて
- ・ ローカルグループについて

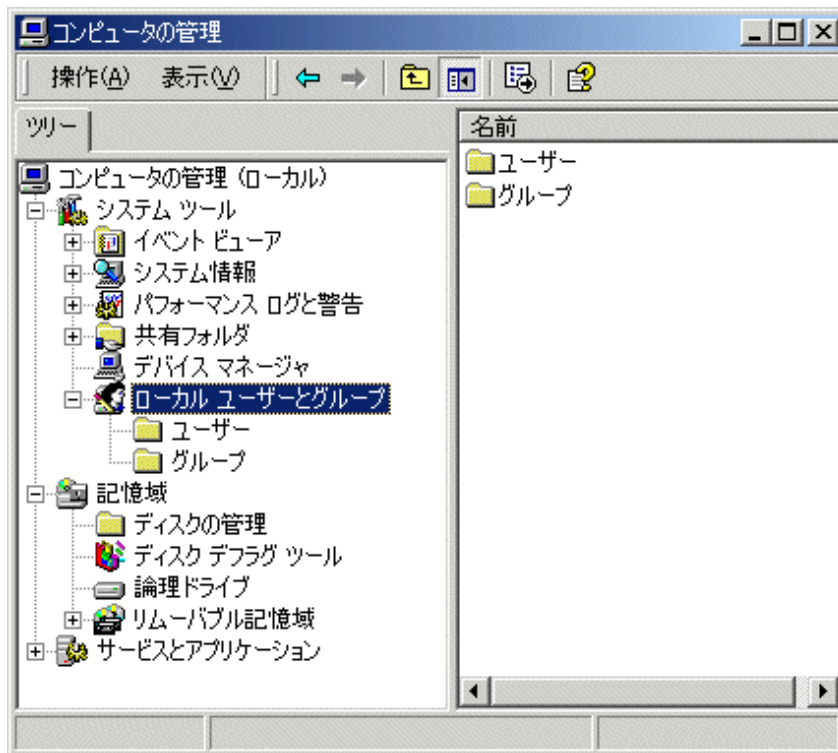
スタートアップアカウントについて

WindowsにSystemwalker Centric Managerを新規にインストールする場合、どのユーザを“スタートアップアカウント”として使用するかの問い合わせがあります。このときに指定したユーザは、Systemwalker Centric Managerの各種サービスを起動するときのアカウントとして使用されます。

すでに存在するユーザをスタートアップアカウントとして指定する場合

スタートアップアカウントとして指定するユーザが、以下の条件を満たしていることをあらかじめ確認してください。

- － ローカルコンピュータのAdministratorsグループに所属していること
- － 無期限パスワードが設定されていること
- － ドメイン運用の場合は、ローカルコンピュータに作成されていること



存在しないユーザをスタートアップアカウントとして指定する場合

指定したアカウントがインストール時に自動的にローカルコンピュータ上に登録されます。導入環境がドメインコントローラの場合には、ドメインコントローラ上に登録されます。

Systemwalker Centric Managerをインストールする前に、スタートアップアカウントについて以下を確認しておいてください。

- ・ スタートアップアカウントは、Systemwalker Centric Managerの各種サービスを起動するアカウントとして使用されるため、インストール時に自動的にAdministratorsグループに所属され、以下の権限が付加されます。
 - － サービスとしてログオン
 - － オペレーティングシステムの一部として機能
 - － クォータの増加 (Windows(R) 2000の場合)
 - － プロセスのメモリ クォータの増加 (Windows(R) 2000 以外の場合)
 - － プロセスレベルトークンの置き換え

- 以下のOSに運用管理サーバをインストールする場合は、Event Log Readers権限が付加されていることを確認してください。
 - Windows Server 2008 STD
 - Windows Server 2008 EE
 - Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems
 - Windows Server 2008 Foundation
 - Windows Server 2008 R2
- 以下の例のように、特定のドメインのユーザを指定することはできません。ドメインコントローラ上に導入する場合でも、ユーザ名だけを指定してください。

例)

UserName@DomainName
DomainName¥UserName
- スタートアップアカウントのアカウント名とパスワードには、以下を指定することはできません。
 - 空白文字を含んだスタートアップアカウントのアカウント名とパスワード
 - 既存のグループ名と同じアカウント名
 - コンピュータ名と同じアカウント名
- 以下のOSにインストールする場合、パスワードなしのユーザを指定することはできません。
 - Windows Server 2003 STD
 - Windows Server 2003 EE
 - Windows Server 2008 STD
 - Windows Server 2008 EE
 - Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems
 - Windows Server 2008 Foundation
 - Windows Server 2008 R2

Systemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントについて

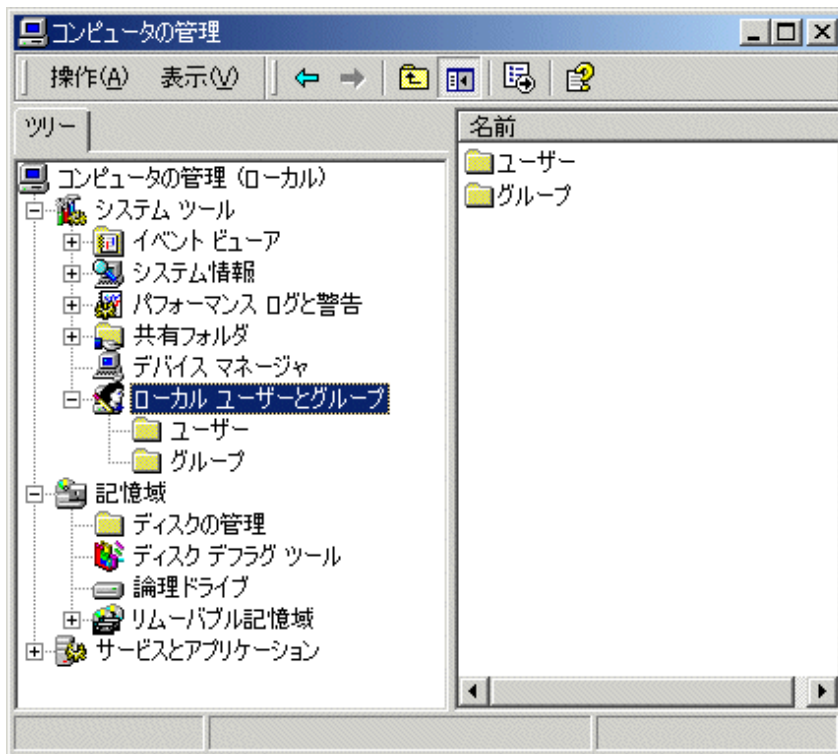
Systemwalker Centric Managerはローカル運用、またはドメイン運用で運用可能です。

Systemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントを作成する前に、以下を確認してください。

なお、新規にSystemwalker Centric Managerをインストールする場合、アカウントの作成は、インストール前でも後でもかまいません。

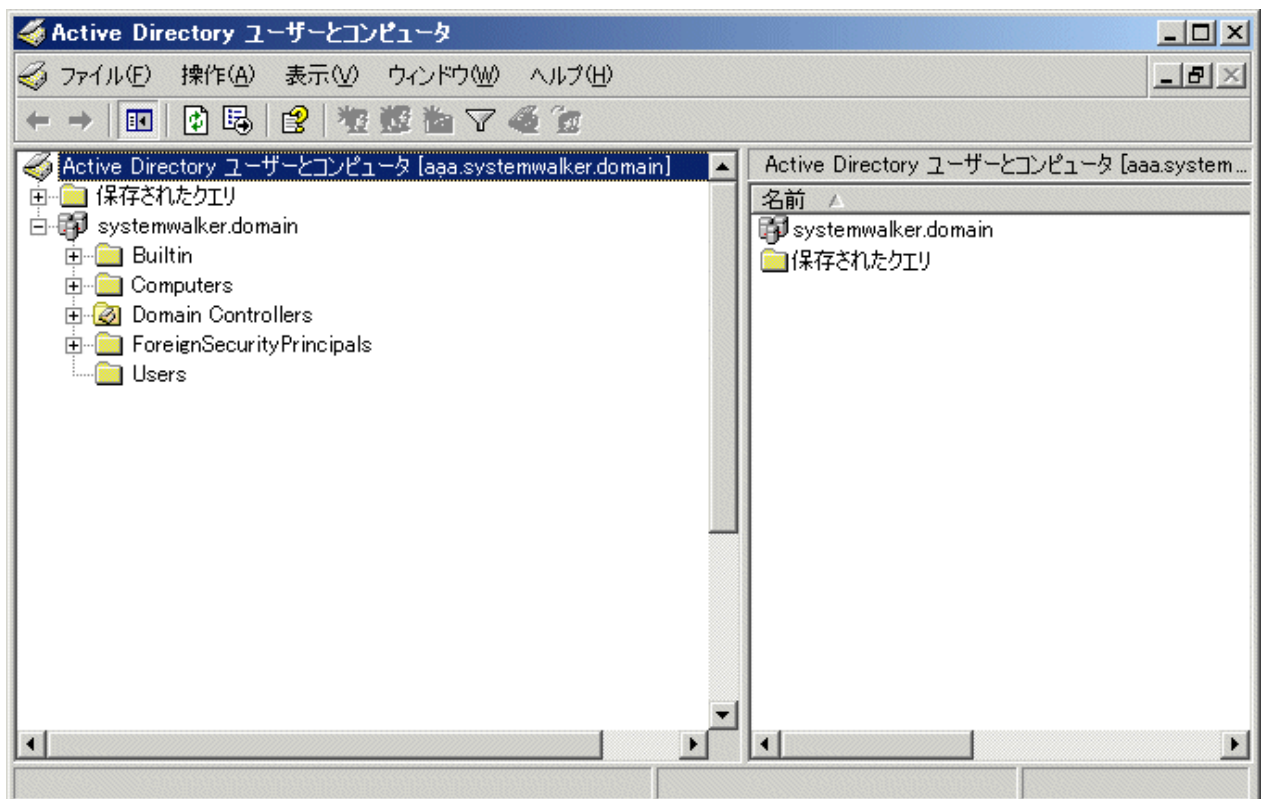
- ローカル運用でアカウントを作成する場合

Systemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントは、ローカルコンピュータに作成してください。



- ドメイン運用でアカウントを作成する場合

Systemwalker Centric Managerを操作するためのアカウントは、ドメインコントローラに作成してください。



ローカルグループについて

Windows(R) 2000以外にSystemwalker Centric Managerの運用管理クライアントをインストールする場合、以下のローカルグループを作成します。このグループは、セキュリティロールと関係付けられます。

Systemwalker Centric Managerをインストールするコンピュータに、以下のローカルグループと同名のユーザ、ローカルグループ、またはグローバルグループがすでに存在する場合は、インストール前にあらかじめ改名しておく必要があります。

- DmAdmin
- DmOperation
- DmReference
- DistributionAdmin
- DistributionOperation
- DistributionReference

なお、Systemwalker Centric Managerをインストールしている状態でこれらのローカルグループを削除すると、Systemwalker Centric Managerの各機能が利用できなくなります。

ポイント

- システム管理者ユーザのデフォルト名“Administrator”を改名する場合は、Systemwalker Centric Managerをインストールする前に実施することをお勧めします。
- ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されている場合は、ドメインの“Users”オブジェクト直下に登録されており、かつ、ユーザの“ユーザ ログオン名 (Windows 2000以前)”と“表示名”が一致している必要があります。

OS	登録されているドメインコントローラの種別
Windows(R) 2000	ドメイン操作モードが“ネイティブ”
Windows Server 2003 STD	ドメインの機能レベルが“Windows 2000 ネイティブ”、“Windows Server 2003”、または“Windows Server 2008”
Windows Server 2003 DTC	
Windows Server 2003 EE	
Windows Server 2008 STD	
Windows Server 2008 DTC	
Windows Server 2008 EE	
Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems	
Windows Server 2008 Foundation	
Windows Server 2008 R2	

4.1.3 定義ファイル(hosts等)の修正

Systemwalker Centric Manager は自ホスト名を取得します。そのため、hostsファイル、またはDNSサーバの設定が必要です。

- DNS名運用の場合
DNSサーバを設定してください。
- その他の場合
hostsファイルに、システム内で一意の自ホスト名や、通信先となるホスト名を設定してください。

なお、イベント監視の条件定義で、ポップアップメッセージアクションの通知先にローカルサブネット外にあるホストを指定する場合は、lmhostsファイルも設定も必要です。

設定方法の詳細については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“hostsファイルまたはDNSサーバの設定”を参照してください。

4.1.4 時刻の設定

Systemwalker Centric Managerは、ネットワークを介してコンピュータを接続するため、各コンピュータ間で時刻を同期させておく必要があります。

NTPサーバを構築することで、各コンピュータで時刻を同期させることができます。

各コンピュータでの時刻同期は、Systemwalker Centric Managerをインストールする前に実施することをお勧めします。

ポイント

Systemwalker Centric Managerのインストール後にコンピュータの時刻を変更する場合は、“Systemwalker Centric Manager Q&A集”の“Q:システム時刻を変更する”を参照してください。

4.1.5 レジストリの設定

以下の手順でレジストリを設定することにより、WindowsサーバでのLANケーブル断線(または抜き差し)時に、動作異常の発生を抑止(メディア検出機能を無効化)することができます。

1. 運用管理サーバ/部門管理サーバにAdministrator権限のアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリを編集します。
(キーに下記の名前が存在しない場合は、有効状態を表しますので、値を追加します。)

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
値の名前 : DisableDHCPMediaSense
値の種類 : DWORD値
値のデータ : 1
※0: 機能有効(デフォルト)
1: 機能無効



3. システムを再起動します。

ポイント

- レジストリの設定は、以下のOSの場合にだけ必要な手順です。

- Windows(R) 2000

- Windows Server 2003 STD
- Windows Server 2003 DTC
- Windows Server 2003 EE

以下のOSの場合は、本手順は不要です。

- Windows Server 2008 STD
- Windows Server 2008 DTC
- Windows Server 2008 EE
- Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems
- Windows Server 2008 Foundation
- Windows Server 2008 R2

- ・メディア検出機能を無効化すると、LANケーブルが抜けた状態になっても、一度アダプタにバインドされたIPアドレスは自動で開放されなくなります。

これにより、DHCPクライアントとして利用していたサーバ/PC端末は、LANの移動後も元のIPアドレスを保持し続けるため、OSの再起動、またはアダプタのIPアドレスの更新を行わないと、新しいLANに接続できなくなります。

- ・設定対象はサーバであり、固定IPアドレスで運用されている場合は、無効化による影響はありません。
-

4.1.6 SMTPサーバの設置

以下の機能を使用する場合、運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバから通信できる環境にSMTPサーバを設置します。

- ・メール連携機能によるイベント通知を行う場合
- ・イベント監視機能でメールを利用したアクションを設定する場合

メール連携機能によるイベント通知を行う設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編”の“イベントをメールで通知するための設定”を参照してください。

4.1.7 SNMPエージェントのインストール

以下の機能を使用する場合、運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバにSNMPエージェントをインストールする必要があります。

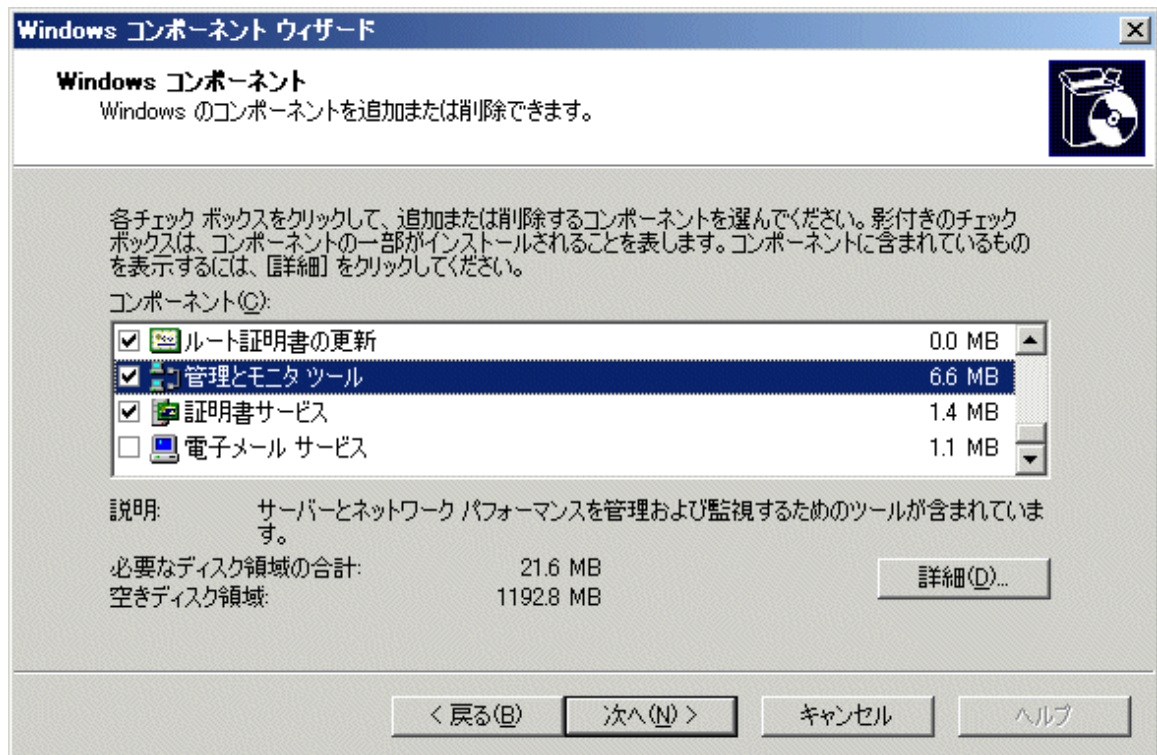
- ・ノード検出を行う場合
- ・稼働状態の表示を行う場合
- ・MIBの監視を行う場合
- ・性能監視を行う場合
- ・SNMPトラップ監視を行う場合

SNMPエージェントのインストール方法

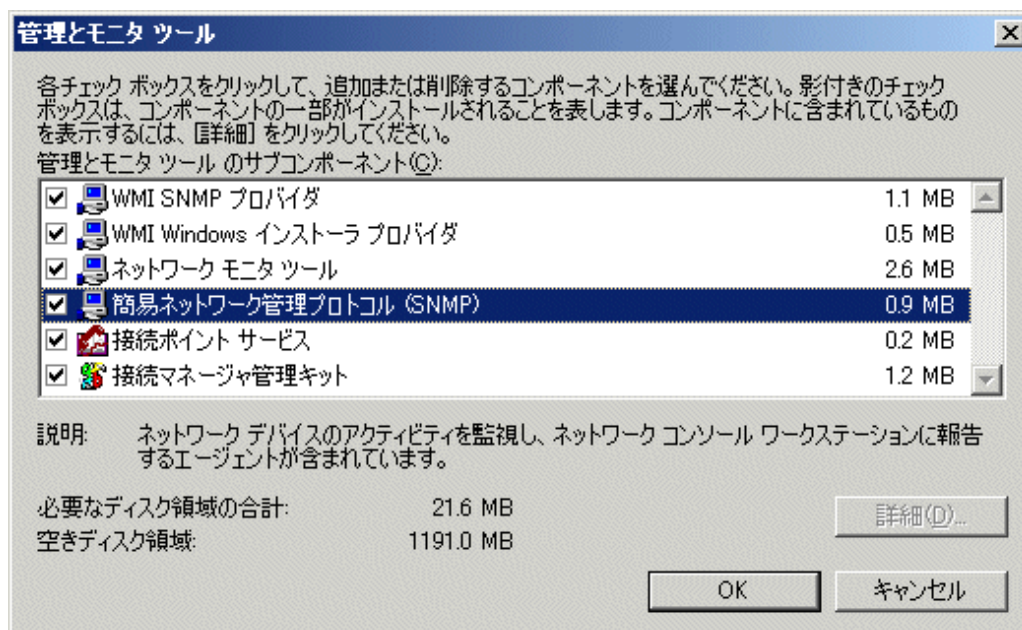
SNMPエージェントは、以下の手順でインストールします。

- ・Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE の場合
 1. [コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]を選択します。
 2. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスで[Windowsコンポーネントの追加と削除]をクリックし、[Windows コンポーネントウィザード]を表示します。

3. [Windows コンポーネントウィザード]の[コンポーネント]一覧から[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。



4. [管理とモニタツール]ダイアログボックスで[簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

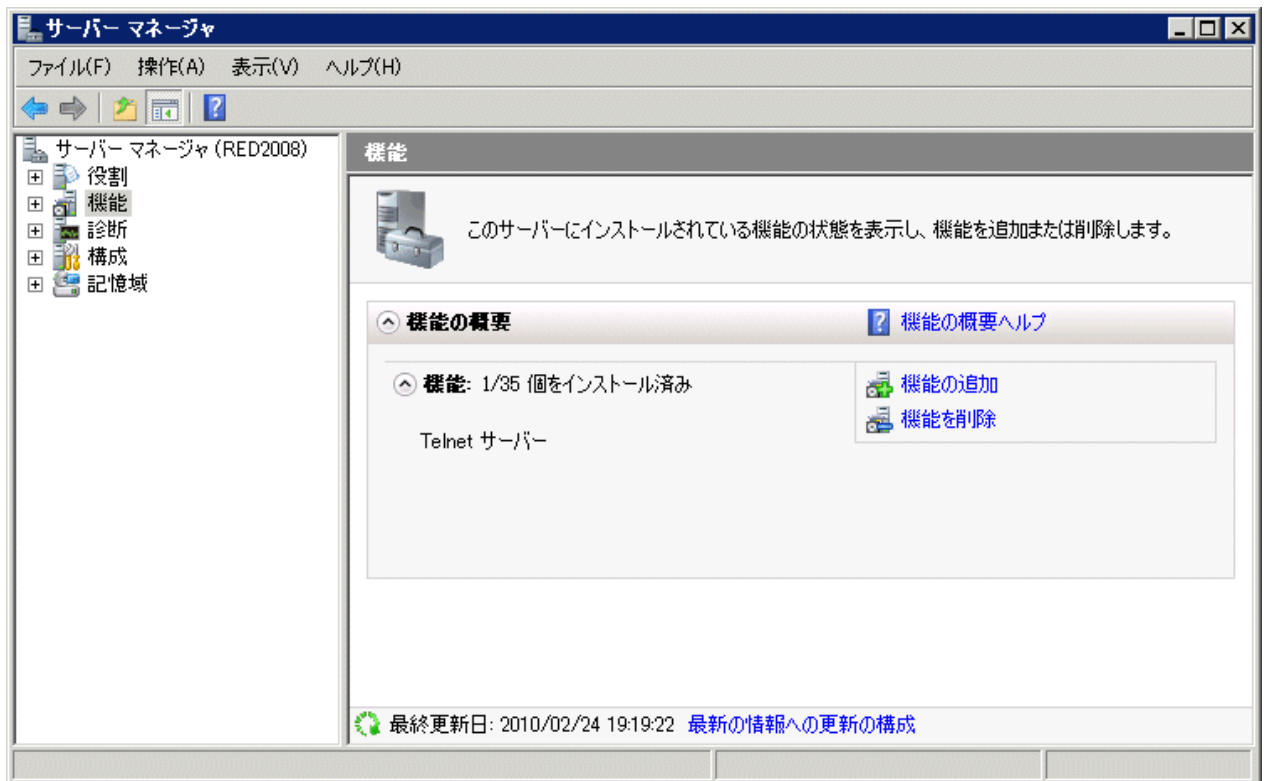


5. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスで[次へ]ボタンをクリックし、画面の指示に従ってWindows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEのCD-ROMをセットするとインストールを開始します。

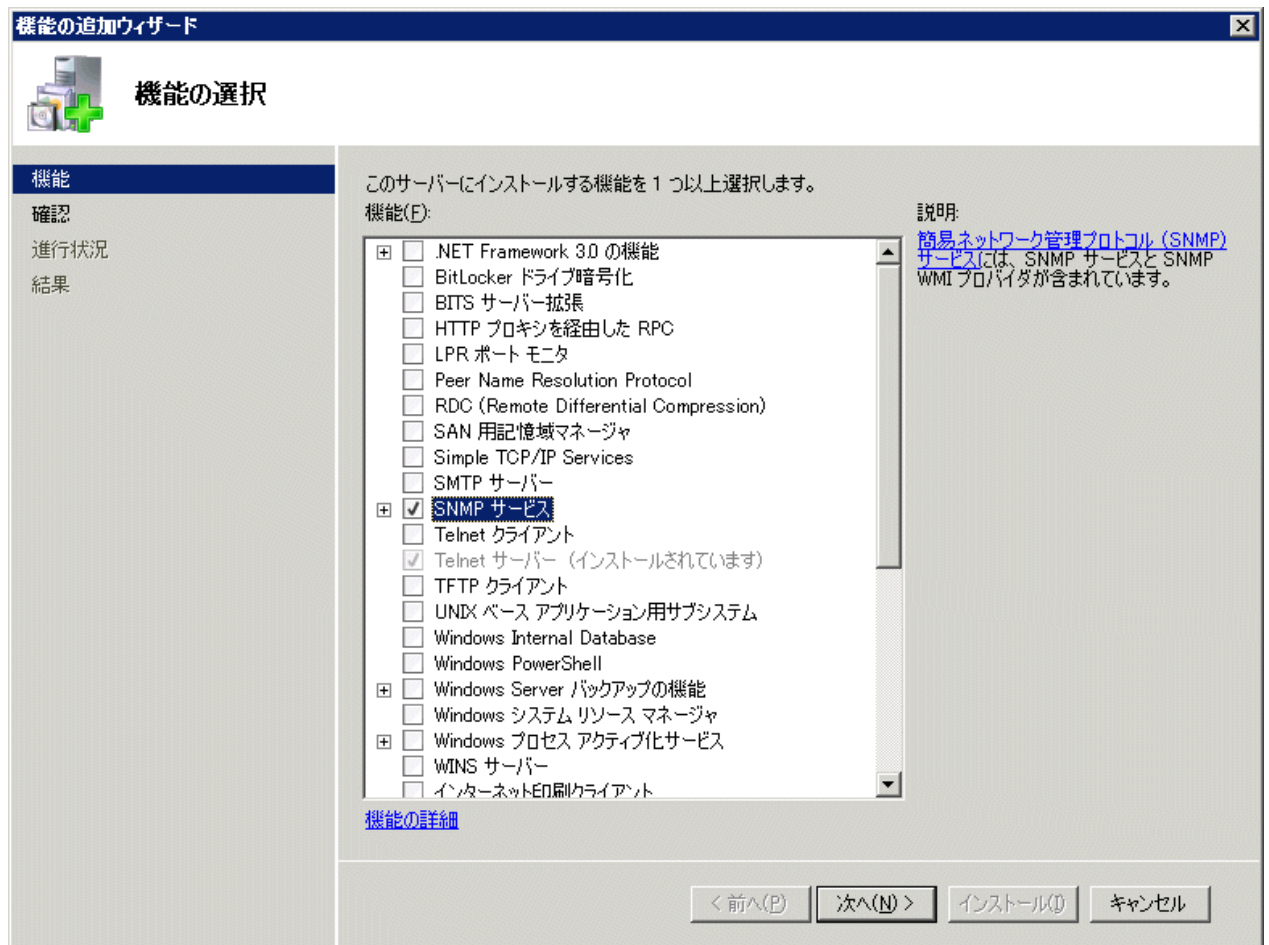
- Windows Server 2008 STD/Windows Server 2008 DTC/Windows Server 2008 EE/Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems/Windows Server 2008 Foundation/Windows Server 2008 R2の場合

1. [コントロールパネル]の[プログラムと機能]を選択します。
2. [プログラムと機能]ダイアログボックスで[Windowsの機能の有効化または無効化]をクリックし、[サーバーマネージャ]を表示します。

3. [サーバーマネージャ]から[機能]を選択し、[機能の追加]をクリックします。



4. [機能の追加ウィザード]ダイアログボックスで[SNMPサービス]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



5. [機能の追加ウィザード]ダイアログボックスで[インストール]ボタンをクリックするとインストールを開始します。

4.2 Systemwalker Centric Managerのインストール

Systemwalker Centric Managerのインストール方法について説明します。

4.2.1 運用管理サーバのインストール

運用管理サーバのインストールは、以下の手順で行います。

インストール媒体の準備



Systemwalker Centric Managerのインストール



環境構築前に実施する作業

- INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)

- Symfoware Serverの設定を確認する
- 修正パッチの適用



データベース作成



Systemwalker Centric Managerの起動

詳細なインストール手順については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理サーバの環境構築”を参照してください。

環境構築前に実施する作業については、以下を参照してください。

- INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。
- Symfoware Serverの設定を確認する
“[Symfoware Serverの設定を確認する](#)”を参照してください。
- 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

4.2.2 部門管理サーバ・業務サーバのインストール

部門管理サーバ・業務サーバのインストールは、以下の手順で行います。

インストール媒体の準備



Systemwalker Centric Managerのインストール



Systemwalker Centric Managerを起動する前に実施する作業

- INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- 修正パッチの適用



Systemwalker Centric Managerの起動

詳細なインストール手順については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“部門管理サーバ・業務サーバの環境構築”を参照してください。

Systemwalker Centric Managerを起動する前に実施する作業については、以下を参照してください。

- INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。

- ・ 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

4.2.3 運用管理クライアント・クライアントのインストール

運用管理クライアント・クライアントのインストールは、以下の手順で行います。

インストール媒体の準備



Systemwalker Centric Managerのインストール



Systemwalker Centric Managerを起動する前に実施する作業

- ・ INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- ・ 修正パッチの適用



Systemwalker Centric Managerの起動

詳細なインストール手順については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“運用管理クライアント・クライアントの環境構築”を参照してください。

Systemwalker Centric Managerを起動する前に実施する作業については、以下を参照してください。

- ・ INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。
- ・ 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

4.3 環境構築前に実施する作業

Systemwalker Centric Managerのインストール後、環境構築を実施する前に必要な作業について説明します。

4.3.1 INITHOSTを修正する

ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境で、以下のINITHOSTファイルにサーバ名/ポート番号が登録されている場合は、すべてコメントにするか削除してください。

- ・ Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpobjdsv¥etc¥INITHOST
- ・ Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mpobjdcl¥etc¥INITHOST
- ・ Interstageインストールディレクトリ¥ODWIN¥etc¥INITHOST

4.3.2 Symfoware Serverの設定を確認する

Systemwalker Centric Manager の一部の機能では、Symfoware Serverの特定の機能を使用しています。

すでにSymfoware/RDB上にデータベースを構築しているコンピュータに運用管理サーバをインストールした場合は、Symfoware/RDBデータベースの各設定値とSystemwalker Centric Manager環境作成時に指定するSymfoware/RDBデータベースの設定値が重複しないようにする必要があります。

Symfoware/RDBデータベースの各設定値を確認する

Systemwalker Centric Managerの環境構築時には以下の設定でSymfoware/RDBデータベースを作成します。すでに構築されているSymfoware/RDBデータベースの各設定値が、以下の設定値と重複していないかを確認してください。

RDBシステム名	RDB構成パラメタ	RDA-SVのサービス名
CENTRIC (変更不可)	RDBSYSTEMID : 24 RDBEXTMEM : 2048	fj-hdrda

Symfoware/RDBデータベースの設定と重複していた場合

すでに構築されているSymfoware/RDBデータベースの設定と、上記の設定値が重複する場合は、Systemwalker Centric Managerが構築するSymfoware/RDBデータベースの設定値を変更する必要があります。

以下のファイルを編集し、RDBSYSTEMID、RDBEXTMEMパラメタを修正してください。

このとき、ほかのパラメタは修正しないでください。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥DB¥CENTRIC.cfg
```

Symfoware/RDBのRDB構成パラメタファイルの指定方法については、“Symfoware Server セットアップガイド”を参照してください。

4.3.3 修正パッチを適用する

Systemwalker Centric Managerの修正パッチを適用する場合、Update Advisorのインストールが必要です。

Update Advisorのインストール方法と、修正を適用する方法について説明します。

Update Advisorのインストール

以下の手順でインストールしてください。

アップデートサイトを利用するためのユーザーIDを取得する



UpdateAdvisor(ミドルウェア)をインストールする

- ・ インストールモジュールをダウンロードする
- ・ Windows環境にインストールする
- ・ UpdateAdvisor(ミドルウェア)の実行環境を設定する



UpdateAdvisor(ミドルウェア)の環境を設定する (uam setup)

詳細なインストール手順については、“Update Advisor(ミドルウェア)ヘルプ”の“お使いになる前の準備と設定”を参照してください。

修正を適用する方法

Systemwalker Centric Managerの修正パッチ適用は、以下の手順で行います。

準備作業



パッチ適用

- 準備作業

アップデートサイトからダウンロードした最新版の修正適用管理簿設定ファイルを、適用コンピュータに格納します。

修正適用管理簿設定ファイルを他のコンピュータからコピーする場合は、任意の方法でコピーします。

適用コンピュータで、`uam setup` コマンドに `-C` オプションをつけて修正適用管理簿の更新を行います。

修正パッチをUpdate Siteからダウンロードします。

- パッチ適用

修正をコンピュータに適用します。

適用する修正より前に適用しなければならない修正(前提修正)があった場合、指定されたディレクトリを自動的に検索し、適用します。前提修正の適用後に、指定された修正の適用を行います。

この操作を行うときは、アップデートサイトとの接続は不要です。

詳細な適用手順については、“Update Advisor(ミドルウェア)ヘルプ”の“ダウンロードした修正を適用する”を参照してください。

4.4 Interstageと共存する場合の環境構築

Interstage、ObjectDirector、またはそれらを使用する他製品が導入されているコンピュータに、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールした場合の環境構築方法について説明します。

なお、ここでは、Interstage、ObjectDirector、またはそれらを使用する他製品について、以下の用語を使用して説明しています。

- ObjectDirector

InterstageのCORBAサービス

- 他製品

Interstage、ObjectDirector、またはそれらを使用する他製品

- 他製品サーバ

Interstageのネーミングサービスが配置され、Interstageのサーバとして動作する他製品のアプリケーション

- 他製品クライアント

リモートコンピュータ上に配置されたInterstageのネーミングサービスを使用するように環境構築し、Interstageのクライアントとして動作する他製品のアプリケーション

以下の手順で環境を構築します。

ネーミングサービスの配置を確認する



Interstageと共存する場合の環境構築

- Interstageのネーミングサービスを構築したコンピュータに、運用管理サーバをインストールした場合

“[運用管理サーバと他製品サーバが共存する場合](#)”を参照してください。

- ・ リモートコンピュータ上に配置したInterstageのネーミングサービスを使用するように環境構築したコンピュータに、運用管理サーバをインストールした場合
“運用管理サーバと他製品クライアントが共存する場合”を参照してください。

ポイント

Interstageと運用管理サーバが同一コンピュータに共存する環境で、Interstageを強制停止(isstop -f)させる必要が生じた場合は、以下の順番で停止させてください。

1. Systemwalker Centric Managerを停止
2. Interstageの強制停止

4.4.1 ネーミングサービスの配置を確認する

Systemwalker Centric Managerと他製品が共存する場合、Interstageのネーミングサービスはシステム上に一つ配置するように環境構築します。

また、他製品が導入されている環境にSystemwalker Centric Managerをインストールした場合、運用管理サーバと運用管理クライアントは、他製品が構築したネーミングサービスを使用するように環境構築します。

共存する他製品のアプリケーションや、他製品が構築したネーミングサービスの配置により、構築手順が異なるため、Interstageの環境構築を行う前に以下を確認してください。

- ・ 他製品サーバと他製品クライアントのどちらと共存しているか
- ・ どのコンピュータにネーミングサービスが配置されているか

なお、運用時に使用するネーミングサービスの詳細については、“Systemwalker Centric Manager Interstage, Symfoware, ObjectDirectorとの共存ガイド”の“Interstageの機能を他製品と共存して使用する”を参照してください。

4.4.2 運用管理サーバと他製品サーバが共存する場合

他製品がInterstageのネーミングサービスを配置したコンピュータに、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールした場合の環境作成方法について、以下の環境構築例を使用して説明します。

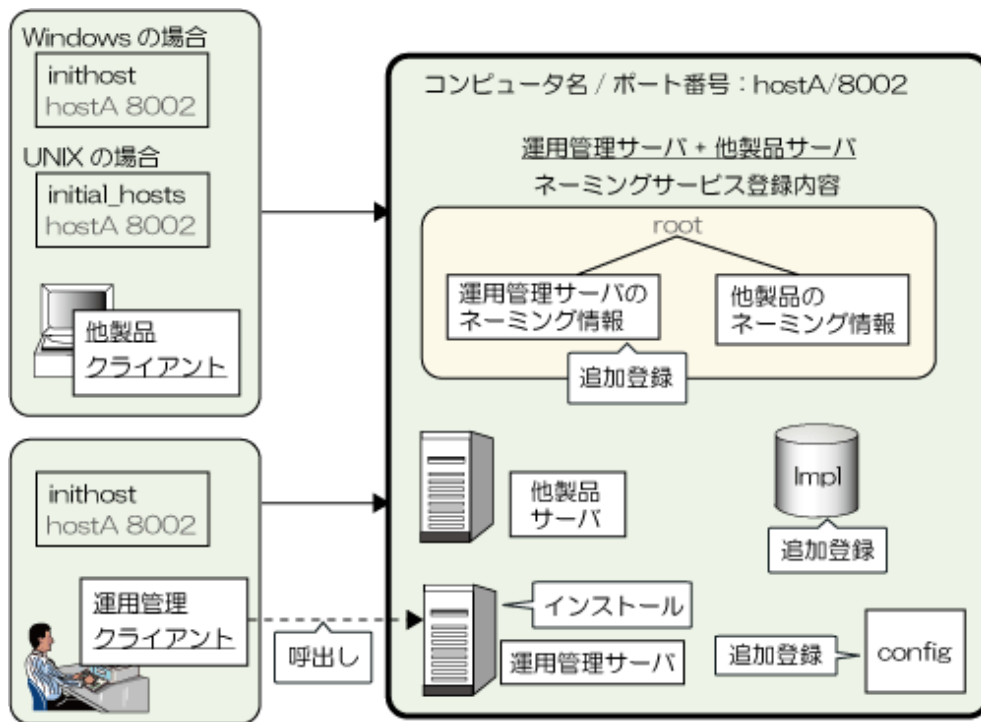
- ・ [環境構築例](#)
- ・ [ネーミングサービスの登録先](#)
- ・ [環境作成手順](#)

環境構築例

運用管理サーバと他製品サーバが共存している場合の環境例を以下に示します。

- ・ 他製品によって、すでにネーミングサービスが構築されているコンピュータ(hostA)が存在している

- コンピュータ(hostA)にSystemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールし、後から環境構築する



ネーミングサービスの登録先

他製品によってすでにネーミングサービスが構築されたコンピュータ上に追加登録します。

上記の環境構築例の場合、コンピュータ(hostA)上のネーミングサービスにSystemwalker Centric Managerのネーミング情報を追加登録します。

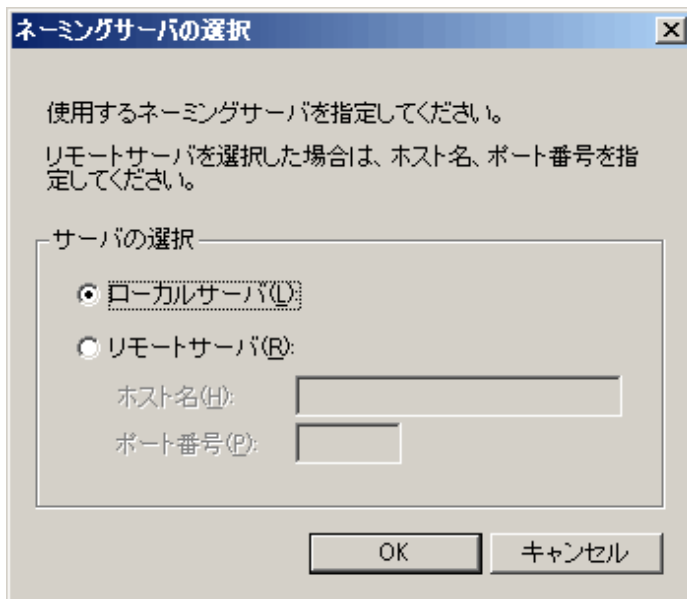
環境作成手順

環境作成手順は以下のとおりです。

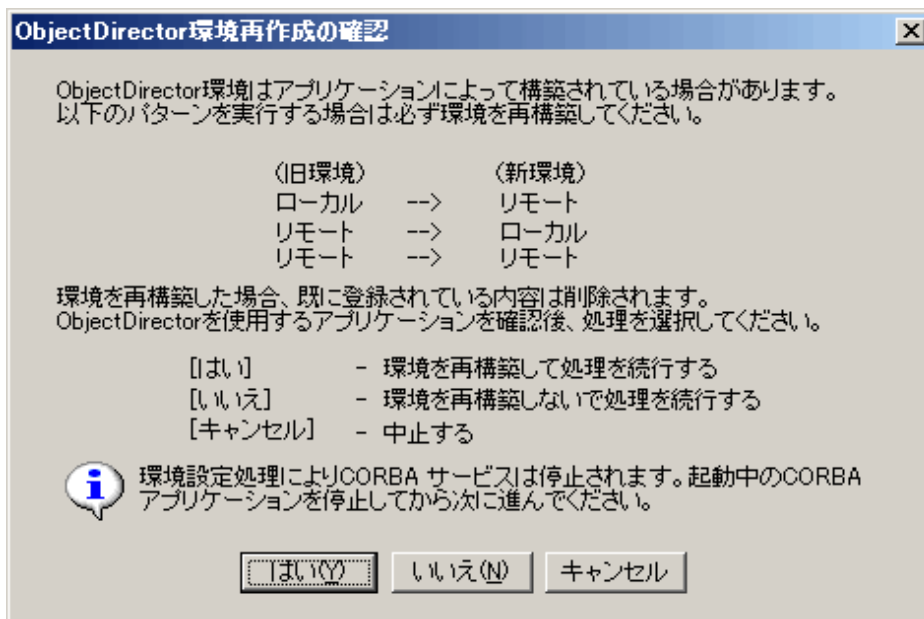
なお、以下の手順を実施すると、ObjectDirectorのconfigファイルのパラメタ値が加算、または上書き設定されます。他製品が設定しているパラメタ値と異なる場合は他製品に影響するため、以下を実施する前にパラメタ値を確認してください。

1. 運用管理サーバをインストールしたコンピュータにAdministratorユーザでログオンします。
2. ObjectDirector上で動作しているアプリケーションが存在する場合は、そのアプリケーションを終了させます。
3. スタートメニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[運用環境の保守]を選択します。
4. [処理の選択]画面で[実施する処理]として[運用環境の構築]を選択します。
5. [各種データベース作成情報の入力]画面の[設定の対象]で作成するデータベースを選択し、データベースごとに必要な情報を入力後、[次へ]ボタンをクリックします。

6. [ネーミングサーバの選択]画面が表示されるので、[ローカルサーバ]を選択します。



7. [ObjectDirector環境再作成の確認]画面が表示されます。



ここでは、「ローカル→ローカル」のパターンとなるため、[いいえ]ボタン(再構築しない)をクリックします。

8. 運用管理サーバ用のネーミング情報が、他製品によってすでに構築されているネーミングサービスに自動的に追加登録されます。

4.4.3 運用管理サーバと他製品クライアントが共存する場合

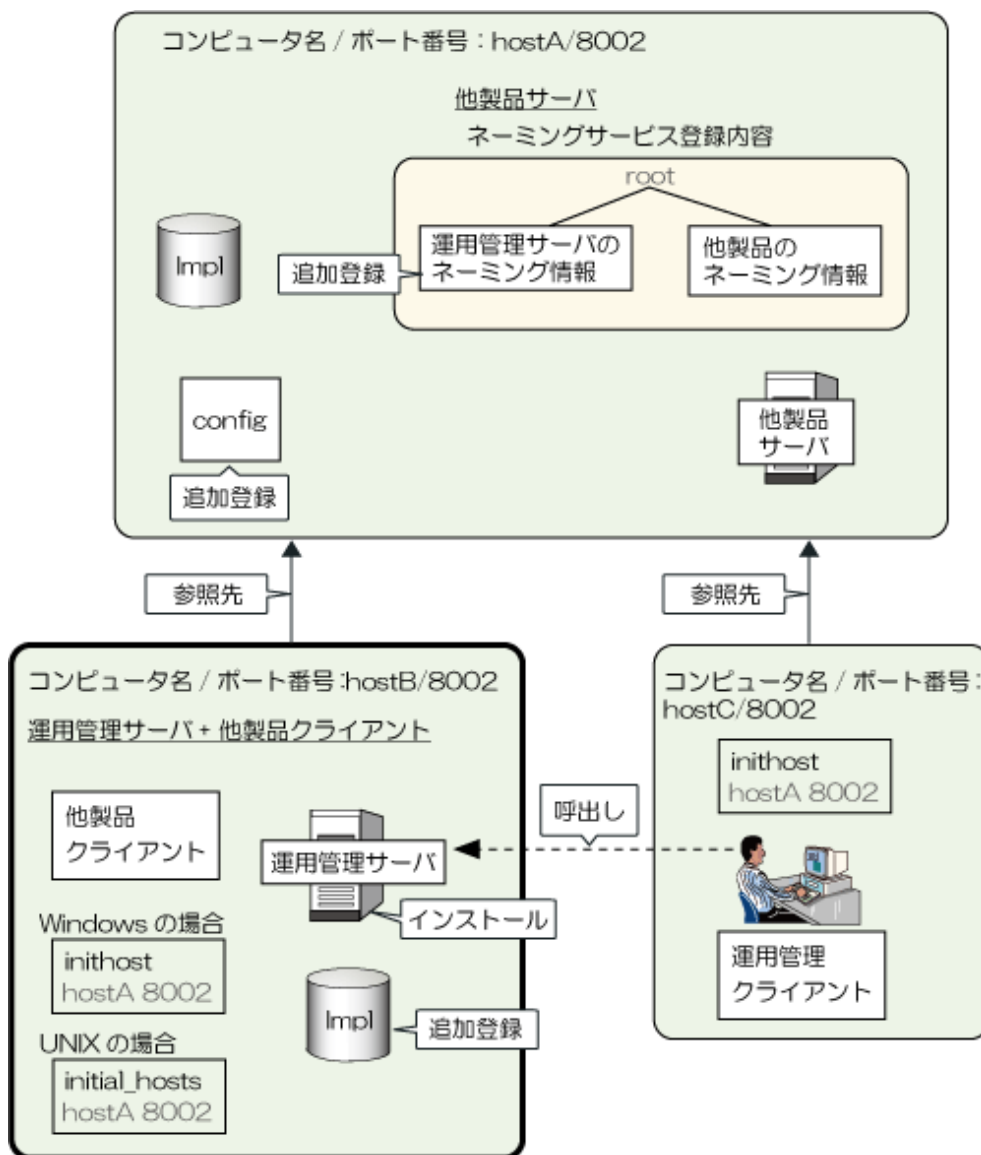
別コンピュータ上に配置されたInterstageのネーミングサービスを参照する他製品がインストールされたコンピュータに、運用管理サーバをインストールした場合の環境作成方法について、以下の環境構築例を使用して説明します。

- 環境構築例
- ネーミングサービスの登録先
- 環境作成手順

環境構築例

運用管理サーバと他製品クライアントが共存している場合の環境例を以下に示します。

- 他製品によってすでにネーミングサービスが構築されたコンピュータ(hostA)が存在する
- 運用管理サーバ(hostB)上に他製品クライアントがすでに存在する
- 他製品クライアントがコンピュータ(hostA)のネーミングサービスを参照する



ネーミングサービスの登録先

他製品によってすでにネーミングサービスが構築されたコンピュータ上に追加登録します。

上記の環境構築例の場合、コンピュータ(hostA)上のネーミングサービスに、Systemwalker Centric Managerのネーミング情報を追加登録します。

環境作成手順

環境作成手順は以下のとおりです。

なお、()内は環境構築例の図中のホスト名を表します。

1. 運用管理サーバ(hostB)で、以下の作業を行います。

- a. 運用管理サーバをインストールしたコンピュータ(hostB)に、Administratorユーザでログオンします。
- b. ObjectDirector上で動作しているアプリケーションが存在する場合は、そのアプリケーションを終了させます。
- c. [コントロールパネル]または[管理ツール]の[サービス]で、“OD_start”サービスを停止します。
- d. configファイルのmax_IIOp_init_conパラメタに加算設定するパラメタ値を変更します。

[SE版の場合]

- ファイル名: Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥OD¥odconfig_SE

```
max_IIOp_init_con = 98
```

[EE版の場合]

- ファイル名: Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥OD¥odconfig_EE

```
max_IIOp_init_con = 204
```

2. 他製品によってすでにネーミングサービスが構築されたコンピュータ(hostA)で、以下の作業を行います。

- a. 他製品クライアントがネーミングサービスとしてリモート参照しているコンピュータ(hostA)に、Administratorsグループに所属するユーザでログオンします。
- b. ObjectDirector上で動作しているアプリケーションが存在する場合は、そのアプリケーションを終了させます。
- c. [コントロールパネル]または[管理ツール]の[サービス]で、“OD_start”サービスを停止します。
- d. 以下のファイルを任意のディレクトリ先に退避します。退避したファイルは環境削除の際に使用します。

```
Interstageインストールディレクトリ¥ODWIN¥etc¥config
```

- e. 以下に示すパラメタ値を、すでに設定されているconfigファイルのパラメタ値に対して加算設定します。

[SE版の場合]

```
max_IIOp_resp_con = 90
```

[EE版の場合]

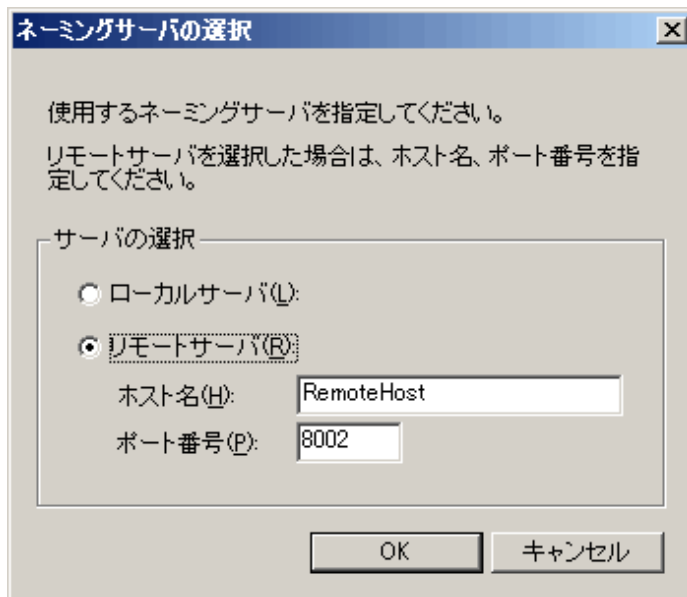
```
max_IIOp_resp_con = 147
```

- f. [コントロールパネル]または[管理ツール]の[サービス]で、“OD_start”サービスおよび“Naming Service”サービスが停止状態の場合は、これらのサービスを起動します。

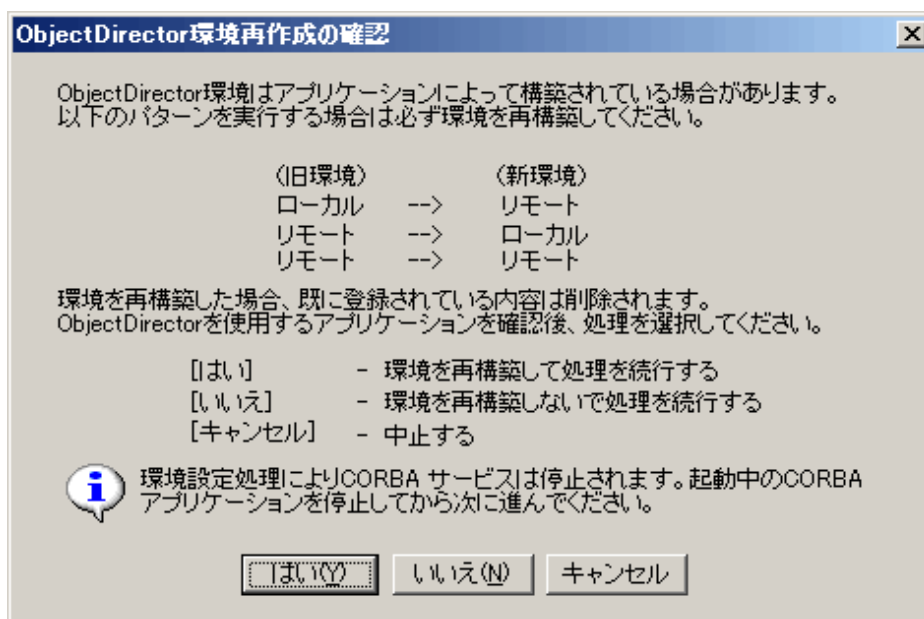
3. 運用管理サーバ(hostB)で、以下の作業を行います。

- a. 運用管理サーバをインストールしたコンピュータ(hostB)で、スタートメニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[ツール]-[運用環境の保守]を選択します。
- b. [処理の選択]画面で[実施する処理]として[運用環境の構築]を選択します。
- c. [各種データベース作成情報の入力]画面の[設定の対象]で作成するデータベースを選択し、データベースごとに必要な情報を入力後、[次へ]ボタンをクリックします。

- d. [ネーミングサーバの選択]画面が表示されるので、[リモートサーバ]を選択し、[ホスト名]、[ポート番号]を入力します。[ホスト名]には他製品クライアントがネーミングサービスとしてリモート参照しているコンピュータ(hostA)の[ホスト名]を指定します。



- e. [ObjectDirector環境再作成の確認]画面が表示されます。



ここでは、[はい]ボタン(再構築する)をクリックします。

- f. 指定したリモートコンピュータ上のネーミングサービスに対して、運用管理サーバのネーミング情報が自動的に登録されます。さらにローカルコンピュータ上にも運用管理サーバ用のObjectDirector環境が構築および登録されます。
4. 運用管理クライアントで、以下の作業を実施します。
- 運用管理クライアントをインストールしたコンピュータ(hostC)にDmAdmin、DmOperation、またはDmReferenceグループに所属するユーザでログオンします。
 - 運用管理クライアントで、[スタート]メニューから[プログラム]-[Systemwalker Centric Manager]-[環境設定]-[Systemwalkerコンソールセットアップ]を選択します。
→[Systemwalkerコンソールセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

c. [追加]ボタンをクリックします。

→[接続先の設定]ダイアログボックスが表示されます。

d. [運用管理サーバのホスト名]に、ホスト名(hostA)を登録します。[ポート番号]には[運用管理サーバのホスト名]に指定したコンピュータに接続するためのポート番号(上記の環境構築例の場合は"8002")を指定します。[ユーザ名]、[パスワードの入力]、[パスワードの確認入力]には運用管理サーバ(hostB)にインストールされているSystemwalker Centric Managerを利用するための情報を登録します。

第5章 バージョンアップする

ここでは、別のコンピュータへSystemwalker Centric Managerをバージョンアップする場合の手順について説明します。

なお、Systemwalker Centric Managerを導入・移行する場合は、すべてのアプリケーションソフトを停止した状態で実施してください。

バージョンアップ手順の流れ

ポリシーの管理方法を確認する



OSの設定

- ・ ファイアウォールの設定
- ・ アカウントの確認・作成
- ・ 定義ファイル(hostsなど)の修正
- ・ 時刻の設定
- ・ レジストリの設定
- ・ SMTPサーバの設置
- ・ SNMPエージェントのインストール



運用管理サーバを移行する

- ・ 運用管理サーバの移出
- ・ 運用管理サーバの移入



部門管理サーバ・業務サーバを移行する

- ・ 部門管理サーバ・業務サーバの移出
- ・ 部門管理サーバ・業務サーバの移入



運用管理クライアント・クライアントを移行する

- ・ 運用管理クライアント・クライアントの移出
- ・ 運用管理クライアント・クライアントの移入

5.1 ポリシー定義の管理方法を確認する

V13.3.0以降のSystemwalker Centric Managerは、V13.2.0以前とポリシー定義の管理方法が異なります。

以下を確認したうえで、バージョンアップを実施してください。

「互換モード」と「通常モード」

V13.2.0以前の管理方法を「互換モード」、V13.3.0以降の管理方法を「通常モード」と呼びます。

V13.2.0以前のSystemwalker Centric Managerからバージョンアップした場合、ポリシー定義の管理方法は、自動的に「互換モード」になります。

バージョンアップ後、「互換モード」から「通常モード」へ変換することは可能ですが、「互換モード」と「通常モード」では、ポリシー定義を管理する仕組みが異なるため、V13.2.0以前のポリシー定義を「通常モード」のポリシー定義に反映させることはできません。

V13.2.0以前のポリシー定義を流用する場合は、互換モードで運用してください。

「互換モード」と「通常モード」の違い

「互換モード」と「通常モード」では、ポリシー定義に関するコマンドの動作が以下のように異なります。

- 「通常モード」では使用できないコマンド

コマンド名	コマンド説明
Mpnmppget	ネットワーク管理ポリシー移出コマンド
Mpnmppset	ネットワーク管理ポリシー移入コマンド
mptrfall	性能監視動作環境設定コマンド
mptrfnod	性能監視監視対象設定コマンド
MpTrfPolProc	性能監視ポリシー作成／配付コマンド
mppolclone	ポリシー複製コマンド
mppolcollect	ポリシー情報移出コマンド
poout	イベント監視の条件のポリシー移出コマンド
poinl	イベント監視の条件のポリシー登録コマンド

- 「通常モード」では仕様が異なるコマンド

コマンド名	コマンド説明	差異
P_Mpapagt	CSVファイルによるアプリケーション情報移入コマンド	「通常モード」の場合、以下を設定することができません。 <ul style="list-style-type: none">稼働監視の設定しきい値の設定 Systemwalkerコンソールから再設定してください。 アプリケーションの登録については、「通常モード」、「互換モード」ともに使用できます。

5.2 OSの設定

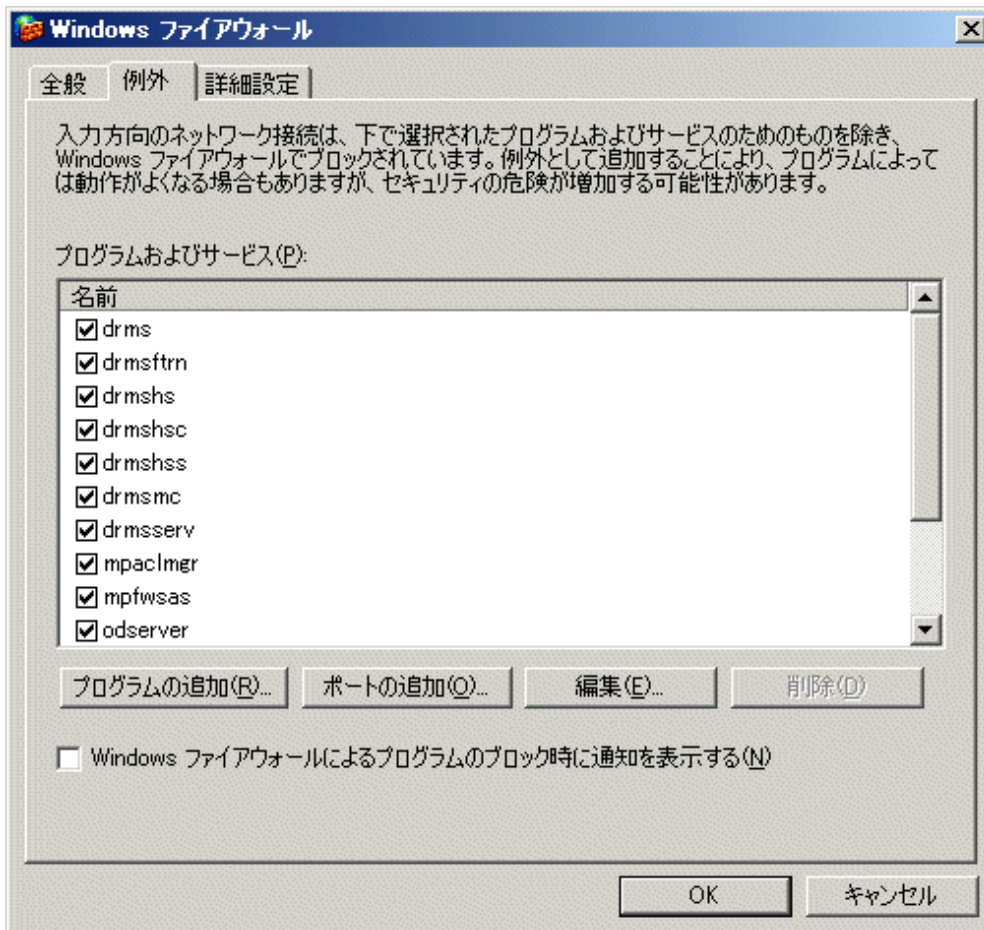
Systemwalker Centric Managerをバージョンアップする場合に必要な、OSの設定について説明します。

5.2.1 ファイアウォールの設定

必要に応じてWindowsファイアウォールの設定を実施してください。

Windowsファイアウォール機能によりSystemwalker Centric Managerの通信処理がブロックされていると、Systemwalker Centric Managerの通信を行うことができません。

Windowsファイアウォールが有効になっているOS上でSystemwalker Centric Managerを使用する場合、Systemwalker Centric Managerの各コンポーネントが使用するポートをファイアウォールの例外に指定し、Systemwalker Centric Managerが通信を行う環境を整えてください。



Systemwalker Centric Managerの各機能が使用するポート番号については“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“ポート番号”を参照してください。

5.2.2 アカウントの確認・作成

Systemwalker Centric Managerで利用するアカウントについて説明します。

移入先コンピュータには、移出元コンピュータのSystemwalker Centric Managerで使用しているユーザと同名のユーザが必要です。

Systemwalker Centric Managerで使用するユーザと同名のユーザが移入先システムにも存在することを確認してください。存在しない場合は作成してください。

ユーザ名に指定可能な文字種別、および設定が必要なセキュリティポリシーについては“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“CD-ROMからのインストール”を参照してください。

ポイント

- 移出元コンピュータのシステム管理者ユーザ名が“Administrator”でない場合、移入先コンピュータのシステム管理者名“Administrator”は、Systemwalker Centric Managerをインストールする前に改名することをお勧めします。
- 移出元に“Administrator”が存在しており、移入先に“Administrator”を存在させたくない場合、移入先の“Administrator”は、Systemwalker Centric Managerをバージョンアップした後で改名してください。

- ・ ユーザが以下の種別のドメインコントローラに登録されている場合は、ドメインの“Users”オブジェクト直下に登録されており、かつ、ユーザの“ユーザ ログオン名 (Windows 2000以前)”と“表示名”が一致している必要があります。

【Windows(R) 2000】

ドメイン操作モードが“ネイティブ”

【Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EE/Windows Server 2008 STD/Windows Server 2008 DTC/Windows Server 2008 EE/Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems】

ドメインの機能レベルが“Windows 2000 ネイティブ”、または“Windows Server 2003”

.....

5.2.3 定義ファイル(hosts等)の修正

Systemwalker Centric Manager は自ホスト名を取得します。そのため、hostsファイル、またはDNSサーバの設定が必要です。

- ・ DNS名運用の場合

DNSサーバを設定してください。

- ・ その他の場合

hostsファイルに、システム内で一意の自ホスト名や、通信先となるホスト名を設定してください。

なお、イベント監視の条件定義で、ポップアップメッセージアクションの通知先にローカルサブネット外にあるホストを指定する場合は、lmhostsファイルの設定も必要です。

設定方法の詳細については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“hostsファイルまたはDNSサーバの設定”を参照してください。

5.2.4 時刻の設定

Systemwalker Centric Managerはネットワークを介してコンピュータを接続するため、各コンピュータ間で時刻を同期させておく必要があります。

NTPサーバを構築することで、各コンピュータで時刻を同期させることができます。

各コンピュータでの時刻同期は、Systemwalker Centric Managerをインストールする前に実施することをお勧めします。

ポイント

.....

Systemwalker Centric Managerのインストール後にコンピュータの時刻を変更する場合は、“Systemwalker Centric Manager Q&A集”の“Q:システム時刻を変更する”を参照してください。

.....

5.2.5 レジストリの設定

以下の手順でレジストリを設定することにより、WindowsサーバでのLANケーブル断線(もしくは抜き差し)時に、動作異常の発生を抑制する(メディア検出機能の無効化)ことが可能です。

本設定の実施は任意です。

1. 運用管理サーバ/部門管理サーバにAdministrator権限のアカウントでログインします。
2. レジストリエディタで以下のレジストリを編集します。
(キーに下記の名前が存在しない場合は、有効状態を表しますので、値を追加します。)

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
値の名前 : DisableDHCPMediaSense

値の種類 :DWORD値
値のデータ :1
※0:機能有効(デフォルト)
1:機能無効

※値のデータ

0:機能有効(デフォルト)

1:機能無効



3. システムを再起動します。

ポイント

- レジストリの設定は、Windows(R) 2000、Windows Server 2003 STD、Windows Server 2003 DTC、およびWindows Server 2003 EE の場合に必要手順です。

Windows Server 2008 STD、Windows Server 2008 DTC、Windows Server 2008 EE、およびWindows Server 2008 for Itanium-Based Systemsの場合、本手順は不要です。

- メディア検出機能を無効化すると、LANケーブルが抜けた状態になっても、一度アダプタにバインドされたIPアドレスは自動で開放されなくなります。

これにより、DHCPクライアントとして利用していたサーバ/PC端末は、LANの移動後も元のIPアドレスを保持し続けるため、OSの再起動、またはアダプタのIPアドレスの更新を行わないと、新しいLANに接続できなくなります。

- 設定対象はサーバであり、固定IPアドレスで運用されている場合は、無効化による影響はありません。

5.2.6 SMTPサーバの設置

以下の機能を使用する場合、運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバから通信できる環境にSMTPサーバを設置します。

- メール連携機能によるイベント通知を行う場合
- イベント監視機能でメールを利用したアクションを設定する場合

メール連携機能によるイベント通知を行う設定の詳細は、“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編”の“イベントをメールで通知するための設定”を参照してください。

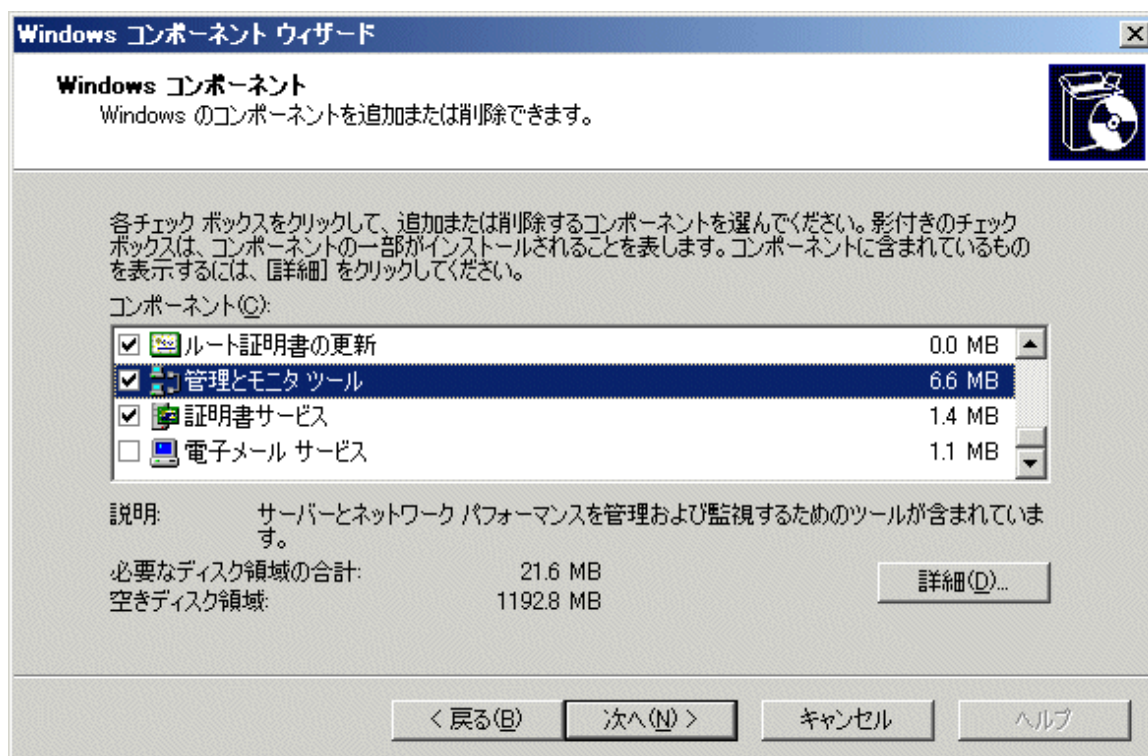
5.2.7 SNMPエージェントのインストール

以下の機能を利用する場合、運用管理サーバ、部門管理サーバ、および業務サーバにSNMPエージェントをインストールする必要があります。

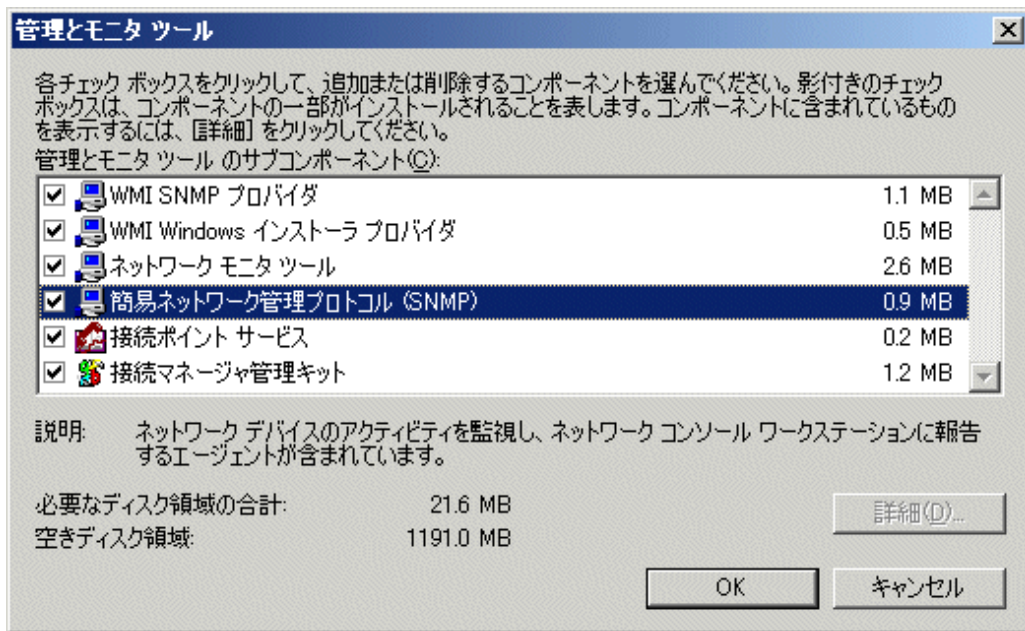
- ノード検出を行う場合
- 稼働状態の表示を行う場合
- MIBの監視を行う場合
- 性能監視を行う場合
- SNMPトラップ監視を行う場合

SNMPエージェントのインストール方法

- Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEの場合
 1. [コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]を選択します。
 2. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスで[Windowsコンポーネントの追加と削除]をクリックし、[Windows コンポーネントウィザード]を表示します。
 3. [Windows コンポーネントウィザード]の[コンポーネント]一覧から[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。



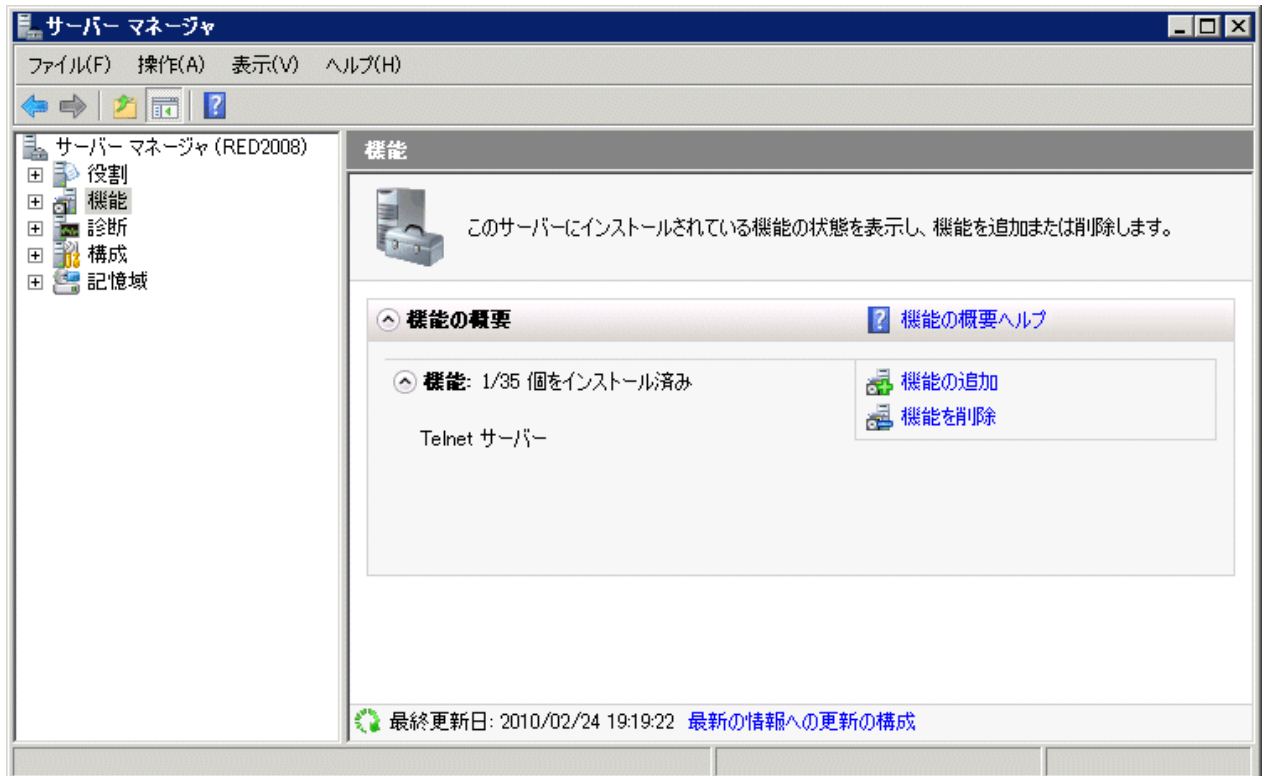
4. [管理とモニタツール]ダイアログボックスで[簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



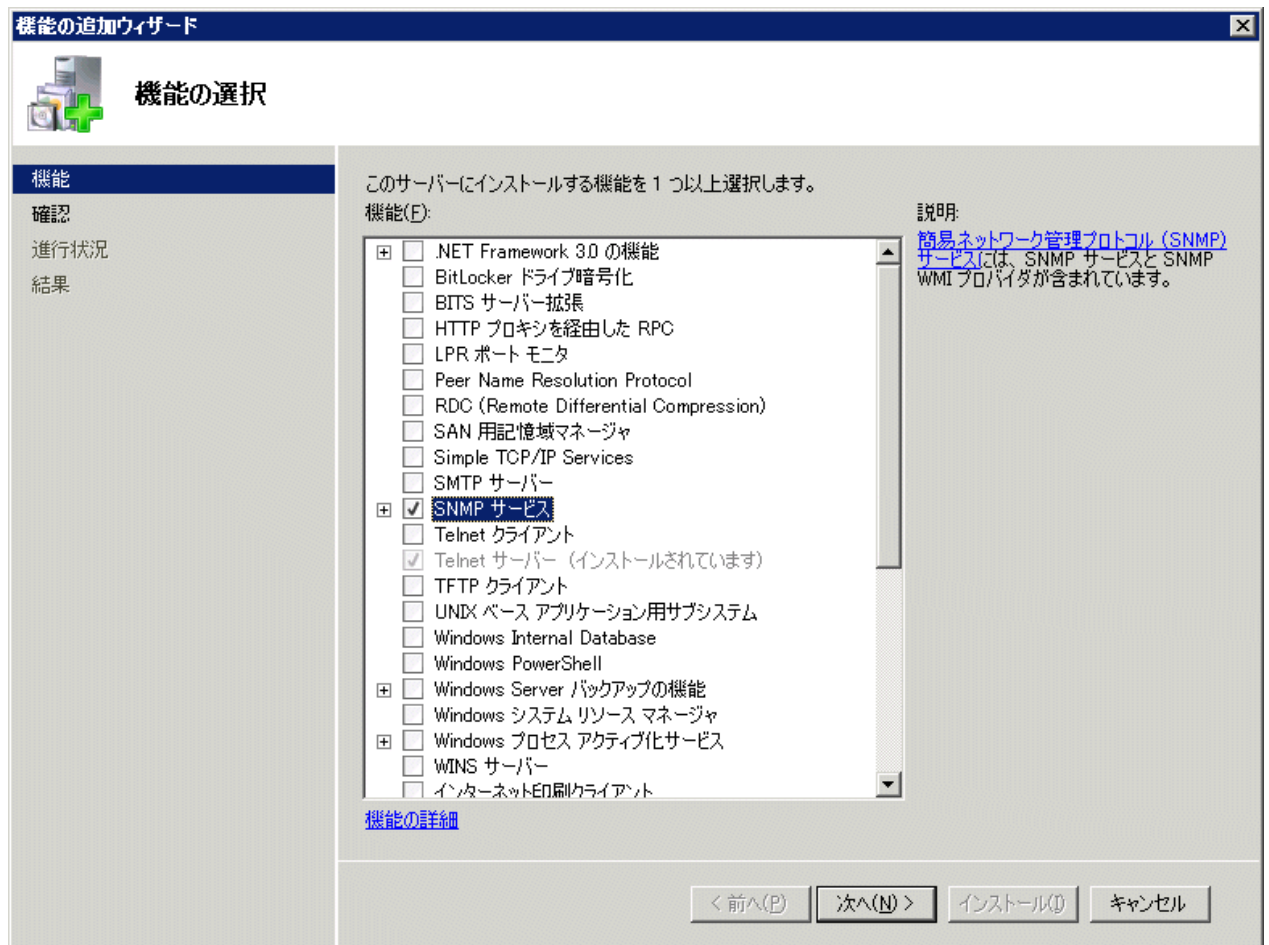
5. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスで[次へ]ボタンをクリックし、画面の指示に従って、Windows Server 2003 STD/Windows Server 2003 DTC/Windows Server 2003 EEのCD-ROMをセットするとインストールを開始します。

- Windows Server 2008 STD/Windows Server 2008 DTC/Windows Server 2008 EE/Windows Server 2008 for Itanium-Based Systems の場合

1. [コントロールパネル]の[プログラムと機能]を選択します。
2. [プログラムと機能]ダイアログボックスで[Windowsの機能の有効化または無効化]をクリックし、[サーバーマネージャ]を表示します。
3. [サーバーマネージャ]から[機能]を選択し、[機能の追加]をクリックします。



4. [機能の追加ウィザード]ダイアログボックスで[SNMPサービス]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



5. [機能の追加ウィザード]ダイアログボックスで[インストール]ボタンをクリックするとインストールを開始します。

5.3 運用管理サーバを移行する

運用管理サーバの移行手順について説明します。

5.3.1 運用管理サーバの移出

運用管理サーバの移出は、以下の手順で行います。

Systemwalker Centric Managerの停止



移行元のコンピュータにCD-ROM媒体(注)をセット

(注)

移入先でのSystemwalkerインストール時に使用する新バージョンのCD-ROM媒体



運用環境の退避

移出手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“運用環境の退避”を参照してください。

5.3.2 運用管理サーバの移入

運用管理サーバの移入は、以下の手順で行います。

移行元で退避したユーザ資産の配置



アカウントの確認



Systemwalkerのインストール



システムを再起動する前に実施する作業

- INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- Symfoware Serverの設定を確認する
- 修正パッチの適用



システムの再起動



運用環境の復元/環境作成



Systemwalker Centric Managerの起動

移入手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“運用環境の復元/環境作成”を参照してください。

システムを再起動する前に実施する作業については、以下を参照してください。

- INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。
- Symfoware Serverの設定を確認する
“[Symfoware Serverの設定を確認する](#)”を参照してください。
- 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

5.4 部門管理サーバ・業務サーバを移行する

部門管理サーバ・業務サーバの移行手順について説明します。

5.4.1 部門管理サーバ・業務サーバの移出

部門管理サーバ・業務サーバの移出は、以下の手順で行います。

Systemwalker Centric Managerの停止



移行元のコンピュータにCD-ROM媒体(注)をセット

(注)

移入先でのSystemwalkerインストール時に使用する新バージョンのCD-ROM媒体



運用環境の退避

移出手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“移行元のコンピュータでバックアップ”を参照してください。

5.4.2 部門管理サーバ・業務サーバの移入

部門管理サーバ・業務サーバの移入は、以下の手順で行います。

移行元で退避したユーザ資産の配置



アカウントの確認



Systemwalkerのインストール



システムを再起動する前に実施する作業

- ・ INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- ・ 修正パッチの適用



Systemwalker Centric Managerの起動



運用環境の復元

移入手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“移行元のコンピュータにリストア”を参照してください。

Systemwalker Centric Managerを起動する前に実施する作業については、以下を参照してください。

- INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。
- 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

5.5 運用管理クライアント・クライアントを移行する

運用管理クライアント・クライアントの移行手順について説明します。

5.5.1 運用管理クライアント・クライアントの移出

運用管理クライアント・クライアントの移出は、以下の手順で行います。

移行元のコンピュータにCD-ROM媒体(注)をセット

(注)

移入先でのSystemwalkerインストール時に使用する新バージョンのCD-ROM媒体



移行元コンピュータでファイル名の変更



運用環境の退避

移出手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“移行元のコンピュータでバックアップ”を参照してください。

5.5.2 運用管理クライアント・クライアントの移入

運用管理クライアント・クライアントの移入は、以下の手順で行います。

移行元で退避したユーザ資産の配置



アカウントの確認



Systemwalkerのインストール



運用環境の復元前に実施する作業

- INITHOSTの修正(ObjectDirector、またはInterstageと共存している環境の場合)
- 修正パッチの適用



運用環境の復元

移入手順の詳細については、“Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド”の“移行元のコンピュータにリストア”を参照してください。

運用環境の復元前に実施する作業については、以下を参照してください。

- INITHOSTの修正
“[INITHOSTを修正する](#)”を参照してください。
- 修正パッチの適用
“[修正パッチを適用する](#)”を参照してください。

第6章 動作を確認する

ここでは、システムの導入・環境構築が正しく行われたかどうかを確認する方法について説明します。

6.1 自動環境定義チェックツールで確認する

Systemwalker Centric Manager導入・環境構築後、システム(OS)とSystemwalker Centric Managerの関係が正しく設定されていることを確認します。

ここでは、自動環境定義チェックツールを使用して、以下を確認する方法について説明します。

- ファイアウォール機能の状態
- hostsファイルの存在・定義

ポイント

自動環境定義チェックツールでは、以下を確認することができます。

- ファイアウォール機能の状態
- hostsファイルの存在・定義
- ネットワーク・インタフェースの搭載枚数チェック
- SNMPエージェントの定義チェック、起動可否判断
- システム定義のチェック(Servicesファイルの定義チェック)
- デスクトップヒープ領域サイズのチェック
- TCPポートチェック
- 監視対象ノードのICMP応答チェック
- 監視対象ノードのSNMP応答チェック
- 性能監視の監視ポリシーチェック

自動環境定義チェックツールのインストール、およびmpdefchkコマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager 動作環境定義チェックツール 説明書”の“動作環境定義チェックツールを使用する”を参照してください。

6.1.1 ファイアウォール機能の状態を確認する

mpdefchkコマンドを実行して、ファイアウォール機能の状態を確認します。

コマンド実行例

```
動作環境定義チェックツールインストールディレクトリ¥mpdefchk¥bin¥mpdefchk -f
```

表示例

```
C:¥mpdefchk¥mpdefchk¥bin>mpdefchk -f
==定義チェック開始==
□ファイアウォール機能の状態をチェックしています。
#####
ファイアウォールが無効に設定されているため、チェックをおこないません。
```

全てのチェック項目で問題は検出されませんでした。

==定義チェック終了==

以下のメッセージが表示され、ファイアウォールの設定に問題がないことを確認してください。

全てのチェック項目で問題が検出されませんでした。

6.1.2 hostsファイルの存在・定義を確認する

mpdefchkコマンドを実行して、hostsファイルの存在・定義を確認します。

コマンド実行例

```
動作環境定義チェックツールインストールディレクトリ¥mpdefchk¥bin¥mpdefchk -o
```

表示例

```
C:¥mpdefchk¥mpdefchk¥bin>mpdefchk -o
```

==定義チェック開始==

hostsファイルの定義をチェックしています。
問題は検出されませんでした。

全てのチェック項目で問題は検出されませんでした。

==定義チェック終了==

以下のメッセージが表示され、hostsファイルの存在・定義に問題がないことを確認してください。

全てのチェック項目で問題が検出されませんでした。

6.2 Systemwalker Centric Managerの動作を確認する

Systemwalker Centric Manager導入・環境構築後、Systemwalker Centric Managerが正しく動作するかを確認します。

ここでは、Systemwalker Centric Managerの以下を確認する方法について説明します。

- ・ サービスの起動状態

6.2.1 サービスの起動状態を確認する

Systemwalker Centric Managerの以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのサービスの起動状態を確認します。

コマンド実行例

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥bin¥mppviewc
```

表示例

```
C:¥Systemwalker¥MPWALKER.DM¥bin>mppviewc
```

```
##### PROCESS INFORMATION BEGIN #####
```

```
** Service Name **
```

```
PROCESS-NAME
```

```
PID
```

```
*****
** BASE: Security **
*****
** Systemwalker ACL Manager **
f3crssvr.exe 1924
** Systemwalker MpShrsv **
mpshrsv.exe 1628

*****
** FS1: Framework **
*****
** Systemwalker MpFwbs **
MpFwbscl.exe 1880
MpFwems.exe 2836
MpFwems.exe 2832
.
.
.
##### PROCESS INFORMATION END #####
```

起動すべきサービスが停止している場合、以下のメッセージが表示されます。

```
ERROR:Process NOT Found
```

上記メッセージが表示されず、すべてのサービスが正しく起動していることを確認してください。

mppviewcコマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“mppviewc(プロセスの動作状況表示コマンド)”を参照してください。

第7章 構築したシステムをバックアップする

動作確認を実施して問題がないことが確認された場合は、構築したシステムをバックアップすることをお勧めします。

ここでは、構築したシステムのバックアップについて説明します。

Systemwalker Centric Manager のバックアップ/リストアは、以下の方法で実施してください。

- V10.0L20以降:
Systemwalker Centric Managerで提供している[運用環境保守ウィザード]の[運用環境の退避/運用環境の復元]を使用してください。
- 10.0L10以前:
Systemwalker Centric Managerで提供しているバックアップ/リストアコマンド(mpbkc/mprsc)を使用してください。

OSのフルバックアップ/フルリストアを使用する場合

バックアップツール(ntbackupなど)や、バックアップソフト(ARCServeなど)を使用した、OSのフルバックアップ/フルリストアは、原則として動作保証外です。

以下の条件を満たしている場合は、OSのフルバックアップ/フルリストアでSystemwalker Centric Managerのバックアップ/リストアが可能ですが、実施する場合は、事前に十分検討/検証してください。

- OSのフルバックアップ/フルリストアを行うシステムのインストール種別が、運用管理サーバ以外であること
- OSのフルバックアップ/フルリストアの際に、Systemwalker Centric Managerのサービスが停止していること
- OSのバックアップ/リストアで、ファイルシステムの情報がフルリストア操作の前後で、同一となることが保証される方法であること
- OSのフルリストアの後で、OSの動作が保証されていること
- 条件を満たしていない場合、正しくSystemwalker Centric Manager をバックアップ/リストアすることができません。

また、作業実施前には、必ず以下の手順を実施してください。

- V10.0L20以降:
Systemwalker Centric Managerで提供している運用環境保守ウィザードで運用環境を退避してください。
- 10.0L10以前:
Systemwalker Centric Managerで提供しているバックアップ/リストアコマンド(mpbkc/mprsc)を使用し、運用環境を退避してください。

付録A 構築後の作業について

ここでは、Systemwalker Centric Managerを構築した後に実施する以下の作業について説明します。

- ・ 監視対象ノードを追加する
- ・ 稼働状態(ノード状態)を確認する
- ・ イベント監視の条件定義を確認する

A.1 監視対象ノードを追加する

監視対象のノードを追加した場合、追加したノードに対してポリシー定義を設定し、ポリシー配付を行います。

このとき、ポリシー定義を設定する前に、監視対象ノードのSystemwalkerのインストール状態を、運用管理サーバに認識させる必要があります。

監視対象のノードは以下の手順で追加します。

監視対象のノードを追加する



監視対象のノードのSystemwalkerインストール状態を、運用管理サーバに通知する

A.1.1 監視対象のノードを追加する

監視対象のノードを追加する手順については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編(互換用)”の“ノードを管理するための設定を行う”を参照してください。

A.1.2 監視対象ノードのSystemwalkerインストール状態を、運用管理サーバに通知する

監視対象ノードのSystemwalkerインストール状態は、以下の方法で運用管理サーバに通知します。

イベント通知先への接続方法が“必要時接続”の場合

登録したノードで、opaconstatコマンドを実行します。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥bin¥opaconstat -a
```

opaconstatコマンドを実行することで、イベント通知が可能となり、イベント通知先で監視対象のノードとして認識されます。

opaconstatコマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“opaconstat (接続構成登録/削除/表示コマンド)”を参照してください。

イベント通知先への接続方法が“常時接続”の場合

登録したノードで、Systemwalker Centric Managerを再起動します。

なお、追加したノードと同じOS、かつ同じインストール種別のノードが存在する場合に流用できるポリシー定義や関連コマンドは以下のとおりです。

機能名	ポリシー定義情報	ポリシー設定方法
イベント監視	ログファイル監視情報	mppolclone(ポリシー複製コマンド)使用する手順
	接続情報	
	動作設定詳細定義情報	
自動運用支援	イベント監視の条件定義情報	

機能名	ポリシー定義情報	ポリシー設定方法
	アクション環境設定情報	
ネットワーク管理	ネットワーク管理ポリシー情報	
	ネットワーク管理ローカル定義情報	
	MIB拡張ファイル	
	登録MIB情報	
性能監視	ネットワーク性能監視定義情報	
	サーバ性能監視定義情報	
スクリプト制御	スクリプト自動起動定義情報	
監査ログ管理	監査ログ管理のログ収集設定情報	
アプリケーション管理	アプリケーションの検出	
	動作の設定情報	
	アプリケーション監視の設定情報	アプリケーション監視のポリシーを設定する手順
資源配付	DRMS編集ファイル	資源配付のポリシーを設定する手順
	スケジュールファイル	
	ノード変数設定ファイル	
	適用先IDの登録情報	
	業務構成情報	
	システム名の定義情報	

ポリシー設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“同じOS、かつ同じインストール種別のサーバを追加する”を参照してください。

A.2 稼働状態(ノード状態)を確認する

稼働状態(ノード状態)を、以下のログファイルで確認することができます。

格納場所

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥MpNetmgr¥log¥MpNmnost
```

出力例

```
2010/09/02 16:21:51, [ホスト名], HTTP SEND
2010/09/02 16:21:52, [ホスト名], HTTP UP
2010/09/02 16:21:53, [ホスト名], DNS SEND
2010/09/02 16:21:55, [ホスト名], DNS DOWN
.
.
.
2010/09/06 13:21:01, [ホスト名], HTTP SEND
2010/09/06 13:21:02, [ホスト名], HTTP UP
2010/09/06 14:51:08, [ホスト名], DNS SEND
2010/09/06 14:51:10, [ホスト名], DNS DOWN
```

ログファイルの詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”の“ネットワーク管理のCSVファイル”の“監視ログファイル”を参照してください。

A.3 イベント監視の条件定義を確認する

Systemwalker Centric Managerの以下のコマンドを使用して、イベント監視の条件定義を確認することができます。

コマンド実行例

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpwalker¥mpaosfs¥bin¥mpaosevchk
```

[定義ファイルの設定]ダイアログボックスが表示されますので、イベント監視の条件定義を指定し、確認してください。

mpaosevchkコマンドの詳細については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”の“イベント監視の条件定義の簡易チェックツールを使用する”を参照してください。